

<2024年度>

授業要項

科目	生物学	学科名	はりきゅう	履修年次	1年次
		教授法	講義	単位数コマ	5単位(38コマ)
教員	小川貴志子	領域	基礎	実務経験	大学教諭
教科書	とつてもやさしい生物基礎				
参考書					
成績評価	小テストと学期末試験				
評価基準	小テストと学期末試験合計点が60点以上で合格とする				
到達目標	生物学と分子生物学の基礎を身につける				
留意点					
授業外に必要な学習内容	教科書に基づいて問題集を復習をする				
授業内容	解剖学や生理学を学んでいくうえで必要な基礎知識を身につけることを一次目標に、生物の特徴、遺伝子とその働き、生物の体内環境の維持、生物の多様性など生物学や分子生物学の基礎を学習する。さらに、はりきゅうの現場で働く時に必要な身体や健康についての考え方を学ぶ。				

授業内容

日程	内 容	使用機材等
1	生物学の基礎ガイダンス	
2	細胞の小器官種類と役割	
3	エネルギーと代謝	
4	呼吸と代謝	
5	ミトコンドリアと代謝	
6	ATP産生と栄養素	
7	遺伝情報とDNA	
8	DNAの構造	
9	ゲノムと遺伝情報	
10	細胞分裂と遺伝情報の分配	
11	細胞周期とDNA	
12	遺伝子情報とタンパク質の合成	
13	体内環境と恒常性	
14	ヒトの体液の種類と働き	

授業内容

日 程	内 容	使用機材等
15	血液と血液凝固	
16	ヒトの循環系	
17	心臓と血管の構造	
18	血液循環と血管の構造	
19	肝臓の構造	
20	肝臓の働き	
21	腎臓の構造	
22	腎臓の働き	
23	ヒトの神経系	
24	神経の構造と神経伝達	
25	中枢神経系	
26	脳の構造と大脳皮質の機能局在	
27	自律神経系	
28	自律神経による調節	
29	内分泌の特徴	
30	ヒトの主なホルモンの種類と作用	
31	自律神経とホルモンの強調	
32	体温の調節	
33	免疫のしくみ	
34	免疫で働く細胞（種類と働き）	
35	自然免疫系	
36	獲得免疫系	
37	免疫と病気	
38	まとめ	

<2024年度>

授業要項

科目	国語	学科名	はりきゅう	履修年次	1年次
		教授法	講義	単位数コマ	4単位30コマ
教員	上條睦美	領域	基礎	実務経験	中学校教諭
教科書	日本語検定公式テキスト・例題集「日本語」中級・増補改訂版				
参考書					
成績評価	試験(2回/年)・毎回の演習テスト・提出物・授業態度などを総合的に評価する。				
評価基準	年間出席の2/3以上の出席と定期試験60点以上を成績の下限とする。				
到達目標	医療現場で必要となるコミュニケーション能力と論理的思考に基づく読解力・表現力を身に付ける。				
留意点					
授業外に必要な学習内容	教科書に示されている日本語表現の基礎内容を繰り返し確認しておくこと。				
授業内容	講義と実践(演習、ロールプレイ)により、理解と確認を繰り返し行う。ソーシャルスキルを学ぶことで、良好な人間関係を築くためのコミュニケーション能力を育て、日本語表現の基礎を学び適切な文章を論理的思考を用いて読むことにより読解力や表現力の向上を図る。				

授業内容

日 程	内 容	使用機材等
1	ガイダンス、コミュニケーション・言葉の成り立ちについて	
2	ソーシャルスキル「挨拶」をする、スタディスキル「メモ」	
3	ソーシャルスキル「話すスキル」「聴くスキル」	
4	スタディスキル「正しい日本語を使う1」文法(敬語)	
5	ソーシャルスキル「話し合いのスキル」1	
6	ソーシャルスキル「話し合いのスキル」2	
7	スタディスキル「新聞記事から学ぶ」1	
8	スタディスキル「文章を読み取る」1	
9	ソーシャルスキル「アサーションスキルとは」	
10	ソーシャルスキル「上手に断る」アサーション	
11	スタディスキル「正しい日本語を使う2」文法	
12	スタディスキル「正しい日本語を使う3」文法	
13	スタディスキル「漢字の読み書き」1	
14	前期試験	
15	前期フィードバック・まとめ	

授業内容

日 程	内 容	使用機材等
16	スタディスキル「新聞記事から学ぶ」 2	
17	スタディスキル「正しい日本語を使う 4」言葉の意味を考える	
18	スタディスキル「文章から読み取る」 2	
19	ソーシャルスキル「感情をコントロールする」	
20	ソーシャルスキル「いろいろな場面におけるアサーション」	
21	スタディスキル「説明する、発表する」	
22	スタディスキル「電話をする」「メールをする」	
23	スタディスキル「手紙を書く」	
24	スタディスキル「調べてレポートを書く」	
25	コミュニケーションゲーム「ディベートをしよう」	
26	スタディスキル「漢字の読み書き」 2	
27	古文を読む「徒然草」	
28	批評文を書く	
29	後期試験	
30	フィードバック・その他	

<2024年度>

授業要項

科 目	解剖学1	学科名	はりきゅう	履修年次	1年次
		教授法	講義	単位数コマ	3単位(38コマ)
教 員	奥田望	領域	専門分野	実務経験	鍼灸院
教科書	『解剖学第2版』				
参考書	生理学(医歯薬出版株式会社) イラスト解剖学(中外医学社) プロメテウス解剖学コアアトラス(医学書院)など				
成績評価	定期試験などを総合的に勘案し評価する。				
評価基準	学則規定に基づく。				
到達目標	人体の区分、位置関係を解剖学的肢位に基づいて把握できる。 筋骨格系の知識から、人体の運動や体表の指標を把握できる。				
留意点	全出席を心がけること。				
授業外に必要な学習内容	授業の内容を復習し、予習もしっかりとおこなう。				
授業内容	鍼灸師として鍼灸院での勤務経験を踏まえ、鍼灸治療に必要とされる筋骨格系をしっかりと身につけさせる。				

授業内容

日 程	内 容	使用機材等
1	オリエンテーション 第1章 人体の構成 人体の区分と方向	配付資料 教科書
2	第10章 運動器系 I. 総論 1. 骨格系 2. 筋系	配付資料 教科書
3	II. 全身の骨格 1. 脊柱	配付資料 教科書
4	II. 全身の骨格 1. 脊柱	配付資料 教科書
5	II. 全身の骨格 2. 胸郭	配付資料 教科書
6	II. 全身の骨格 2. 胸郭	配付資料 教科書
7	III. 体幹 1. 体幹の筋	配付資料 教科書
8	III. 体幹 1. 体幹の筋	配付資料 教科書
9	III. 体幹 1. 体幹の筋	配付資料 教科書
10	III. 体幹 1. 体幹の筋	配付資料 教科書
11	III. 体幹 1. 体幹の筋 2. 体幹の運動 3. 体幹の局所解剖	配付資料 教科書
12	II. 全身の骨格 3. 上肢の骨格	配付資料 教科書
13	II. 全身の骨格 3. 上肢の骨格	配付資料 教科書
14	II. 全身の骨格 3. 上肢の骨格	配付資料 教科書

授業内容

日 程	内 容	使用機材等
15	定期試験	配付資料 教科書
16	IV. 上肢 1. 上肢の筋	配付資料 教科書
17	IV. 上肢 1. 上肢の筋	配付資料 教科書
18	IV. 上肢 1. 上肢の筋	配付資料 教科書
19	IV. 上肢 1. 上肢の筋	配付資料 教科書
20	IV. 上肢 1. 上肢の筋 2. 上肢の運動 3. 上肢の局所解剖	配付資料 教科書
21	II. 全身の骨格 4. 下肢の骨格	配付資料 教科書
22	II. 全身の骨格 4. 下肢の骨格	配付資料 教科書
23	II. 全身の骨格 4. 下肢の骨格	配付資料 教科書
24	V. 下肢 1. 下肢の筋	配付資料 教科書
25	V. 下肢 1. 下肢の筋	配付資料 教科書
26	V. 下肢 1. 下肢の筋	配付資料 教科書
27	V. 下肢 1. 下肢の筋	配付資料 教科書
28	V. 下肢 1. 下肢の筋 2. 下肢の運動 3. 下肢の局所解剖	配付資料 教科書
29	II. 全身の骨格 5. 頭蓋骨	配付資料 教科書
30	II. 全身の骨格 5. 頭蓋骨	配付資料 教科書
31	II. 全身の骨格 5. 頭蓋骨	配付資料 教科書
32	II. 全身の骨格 5. 頭蓋骨	配付資料 教科書
33	VI. 頭頸部 1. 頭頸部の筋	配付資料 教科書
34	VI. 頭頸部 1. 頭頸部の筋	配付資料 教科書
35	VI. 頭頸部 1. 頭頸部の筋	配付資料 教科書
36	3. 頭頸部の局所解剖	配付資料 教科書
37	定期試験	配付資料 教科書
38	振り返り	配付資料 教科書

<2024年度>

授業要項

科目	解剖学 2	学科名	はりきゅう	履修年次	1年次
		教授法	講義	単位数コマ	3単位(38コマ)
教員	八重樫 久都	領域	専門基礎分野	実務経験	鍼灸院
教科書	解剖学 第2版 東洋療法学校協会編 医歯薬出版株式会社				
参考書	生理学 第2版 東洋療法学校協会編 医歯薬出版株式会社				
成績評価	小テスト、前期試験、後期試験および授業態度などを総合して評価する。				
評価基準	学則規定に基づく。				
到達目標	人体の構造について理解を深めるとともに、生理学や2年次以降の科目にいきる基礎を構築する。				
留意点	定期的に小テストを行います。				
授業外に必要な学習内容	復習として教科書の熟読、授業資料の見直しをしてください。				
授業内容	細胞、組織、循環器系、呼吸器系、消化器系、神経系、脈管系等の人体の構造を学ぶ。				

授業内容

日程	内容	使用機材等
1	オリエンテーション 第1章 人体の構成（細胞）	
2	第1章 人体の構成（組織）	
3	第1章 人体の構成（組織）	
4	第1章 人体の構成（体表構造）	
5	第3章 呼吸器系（鼻腔・副鼻腔・咽頭・喉頭）	
6	第3章 呼吸器系（気管・気管支・肺）	
7	第2章 循環器系（血管系）	
8	第2章 循環器系（心臓）	
9	第2章 循環器系（心臓）	
10	第2章 循環器系（動脈系）	
11	第2章 循環器系（静脈系）	
12	第2章 循環器系（胎児循環・リンパ系）	
13	第4章 消化器系（消化管の基本構造）	
14	第4章 消化器系（口腔・咽頭・食道・胃）	
15	第4章 消化器系（小腸・大腸）	

授業内容

日 程	内 容	使用機材等
16	第4章 消化器系（肝臓・胆嚢）	
17	第4章 消化器系（膵臓・腹膜）	
18	前期本試験	
19	試験解説	
20	第8章 神経系（神経系の構成）	
21	第8章 神経系（中枢神経系）	
22	第8章 神経系（中枢神経系）	
23	第8章 神経系（中枢神経系）	
24	第10章 頭頸部の脈管系	
25	第8章 神経系（伝導路）	
26	第8章 神経系（伝導路）	
27	第8章 神経系（末梢神経系：脳神経）	
28	第8章 神経系（末梢神経系：脳神経）	
29	第8章 神経系（末梢神経系：脳神経）	
30	第8章 神経系（末梢神経系：脊髄神経） 第10章 上肢の神経走行	
31	第8章 神経系（末梢神経系：脊髄神経） 第10章 下肢の神経走行	
32	第8章 神経系（自律神経系）	
33	第8章 神経系（自律神経系）	
34	第10章 上肢の脈管	
35	第10章 下肢の脈管	
36	後期本試験	
37	試験解説	
38	重要箇所の復習	

<2024年度>

授業要項

科目	生理学 1	学科名	はりきゅう	履修年次	1年次
		教授法	講義	単位数コマ	3単位 (38コマ)
教員	小林 春代	領域	専門基礎	実務経験	鍼灸師
教科書	『生理学 第3版』医歯薬出版				
参考書	『解剖学第2版』、配付資料等				
成績評価	中間試験、期末試験、出席等から総合評価し、学校の定める試験評価に準ずる				
評価基準	学則規定に基づく				
到達目標	生命現象や生体機能の仕組みを学び、人体の機能系統の器官と働きを理解する				
留意点	専門用語が多いため、教科書等を読み・書きする習慣をつけ、言葉に慣れていくこと				
授業外に必要な学習内容	解剖学の知識をもとに、各臓器や器官の役割がイメージできるよう、図を使って情報の整理をする				
授業内容	鍼灸師として鍼灸院での勤務経験を踏まえ、本科目について教授する。 第1章～第7章、第14章、第15章を範囲とする				

授業内容

日程	内 容	使用機材等
1	第1章 生理学の基礎 A. 生理機能の特徴 B. 細胞の構造と機能	
2	B. 細胞の構造と機能 C. 物質代謝	
3	D. 体液の組成と働き E. 物質移動	
4	第2章 循環 A. 血液の組成と働き	
5	A. 血液の組成と働き	
6	B. 止血 C. 線維素溶解 D. 血液型	
7	E. 心臓血管系 F. 心臓の構造と働き	
8	F. 心臓の構造と働き	
9	G. 血液循環	
10	中間試験 G. 血液循環 H. 循環調節	
11	H. 循環調節	
12	H. 循環調節 I. リンパ系	
13	第3章 呼吸 A. 呼吸器 B. 換気とガス交換	
14	B. 換気とガス交換 C. 呼吸運動とその調節	
15	第4章 消化と吸収 A. 消化と吸収	

授業内容

日 程	内 容	使用機材等
16	A. 消化と吸収 B. 消化管の運動	
17	B. 消化管の運動	
18	B. 消化管の運動	
19	前期期末試験	
20	試験解説 B. 消化管の運動 C. 消化液	
21	D. 吸収 E. 肝臓の働き F. 摂食の調節	
22	第5章 代謝 A. 食品と栄養素 B. 代謝	
23	C. 各栄養素の働きと代謝	
24	C. 各栄養素の働きと代謝	
25	第6章 体温 A. 体温調節	
26	B. 体熱の産生と放散 C. 発汗とその調節 D. 体温調節の障害	
27	第7章 排泄 A. 腎臓の働き B. 腎循環	
28	C. 尿生成	
29	中間試験 C. 尿生成	
30	D. 腎臓と体液の調節 E. 蓄尿と排尿	
31	第14章 生体の防御機構 A. 生体の防御機構	
32	A. 生体の防御機構 B. 免疫反応	
33	第15章 身体活動の協調 A. 生体の適応	
34	B. 恒常性維持	
35	B. 恒常性維持 C. バイオリズム	
36	まとめ	
37	後期期末試験	
38	試験解説	

<2024年度>

授業要項

科 目	生理学 2	学科名	はりきゅう	履修年次	1 年次
		教授法	講義	単位数コマ	3 単位(38 コマ)
教 員	藤井 栄二	領域	専門基礎	実務経験	鍼灸院
教科書	内田さえ 原田玲子 他著:生理学 第3版 医歯薬出版株式会社				
参考書					
成績評価	定期試験により行う。				
評価基準	S(90点以上)、A(80点以上)、B(70点以上)、C(60点以上)、D(60点以下)で表わし、C以上を合格とする。				
到達目標	授業内容を理解し、臨床現場で活かすことができる。				
留意点	『疑いを人に問うは知を求むる道なり。自ら心に道理を思ふは知を開く本なり。』				
授業外に必要な学習内容	普段から文章を読み書きし、国語力を鍛えること。				
授業内容	鍼灸師として鍼灸院での勤務経験を踏まえ、主に教科書を使用し理解しておくべき内容を説明する。				

授業内容

日 程	内 容	使用機材等
1	第 8 章 内分泌 A. ホルモンの特徴～	教科書・資料プリント
2	第 8 章 内分泌 B. ホルモンの種類とその働き～	教科書・資料プリント
3	第 8 章 内分泌 B. ホルモンの種類とその働き～	教科書・資料プリント
4	第 8 章 内分泌 B. ホルモンの種類とその働き～	教科書・資料プリント
5	第 8 章 内分泌 B. ホルモンの種類とその働き～	教科書・資料プリント
6	第 8 章 内分泌 B. ホルモンの種類とその働き～	教科書・資料プリント
7	第 9 章 生殖・成長と老化 A. 生殖～	教科書・資料プリント
8	第 9 章 生殖・成長と老化 B. 妊娠と出産～	教科書・資料プリント
9	第 9 章 生殖・成長と老化 D. 老化～	教科書・資料プリント
10	第 10 章 神経 A. ニューロンの構造と働き～	教科書・資料プリント
11	第 10 章 神経 A. ニューロンの構造と働き～	教科書・資料プリント
12	第 10 章 神経 C. シナプス伝達～	教科書・資料プリント
13	第 10 章 神経 D. 中枢神経系の分類と機能～	教科書・資料プリント
14	第 10 章 神経 G. 脳幹～	教科書・資料プリント

授業内容

日 程	内 容	使用機材等
15	第10章 神経 K. 大脳～	教科書・資料プリント
16	第10章 神経 K. 大脳～	教科書・資料プリント
17	期末試験	学生証・筆記用具
18	試験解説(追・再試験)	期末試験問題用紙
19	第10章 神経 N. 自律神経系～	教科書・資料プリント
20	第10章 神経 N. 自律神経系～	教科書・資料プリント
21	第10章 神経 N. 自律神経系～	教科書・資料プリント
22	第10章 神経 N. 自律神経系～	教科書・資料プリント
23	第11章 筋 A. 骨格筋の構造と働き～	教科書・資料プリント
24	第11章 筋 B. 筋の収縮の仕組み～	教科書・資料プリント
25	第12章 運動 A. 骨格筋の神経支配～	教科書・資料プリント
26	第12章 運動 B. 運動の調節～	教科書・資料プリント
27	第12章 運動 B. 運動の調節～	教科書・資料プリント
28	第12章 運動 B. 運動の調節～	教科書・資料プリント
29	第12章 運動 D. 発声と言語～	教科書・資料プリント
30	第13章 感覚 B. 体性感覚～	教科書・資料プリント
31	第13章 感覚 D. 痛覚～	教科書・資料プリント
32	第13章 感覚 E. 味覚と嗅覚～	教科書・資料プリント
33	第13章 感覚 F. 聴覚～	教科書・資料プリント
34	第13章 感覚 H. 視覚～	教科書・資料プリント
35	第13章 感覚 H. 視覚～	教科書・資料プリント
36	総合学習	教科書・資料プリント
37	期末試験	学生証・筆記用具
38	試験解説(追・再試験)	期末試験問題用紙

<2024年度>

授業要項

科目	関係法規	学科名	はりきゆう	履修年次	1年次
		教授法	講義	単位数コマ	1単位(13コマ)
教員	古川 清裕	領域	専門基礎	実務経験	鍼灸院
教科書	『関係法規』東洋療法学校協会編				
参考書	配布資料など				
成績評価	期末試験、授業態度などを総合評価とし、学校の定める試験評価に準ずる。				
評価基準	同上				
到達目標	法学を理解して現場で活かし、患者や自身の権利を守ることができる医療人となる。				
留意点	全出席を心がけること。				
授業外に必要な学習内容	特になし。				
授業内容	鍼灸師として鍼灸院での勤務経験を踏まえ、医療人として法規の知識を展開する。				

授業内容

日程	内容	使用機材等
1	オリエンテーション	
2	序論法とは何か。	
3	第1章 あん摩マッサージ指圧師、はり師、きゆう師等に関する法律	
4	第1章 あん摩マッサージ指圧師、はり師、きゆう師等に関する法律	
5	第1章 あん摩マッサージ指圧師、はり師、きゆう師等に関する法律	
6	第1章 あん摩マッサージ指圧師、はり師、きゆう師等に関する法律	
7	第1章 あん摩マッサージ指圧師、はり師、きゆう師等に関する法律	
8	第2章 関係法規	
9	第2章 関係法規	
10	第2章 関係法規	
11	第2章 関係法規	
12	第2章 関係法規	
13	定期試験	

<2024年度>

授業要項

科目	東洋医学概論 1	学科名	はりきゅう	履修年次	1 年次
		教授法	講義	単位数コマ	3 単位(38 コマ)
教員	藤井 栄二	領域	専門	実務経験	鍼灸院
教科書	教科書執筆小委員会著: 東洋医学概論 株式会社医道の日本社				
参考書	天津中医薬大学、学校法人後藤学園: 針灸学[基礎編] 第三版 東洋学術出版社				
成績評価	定期試験により行う。				
評価基準	S(90点以上)、A(80点以上)、B(70点以上)、C(60点以上)、D(60点以下)で表わし、C以上を合格とする。				
到達目標	授業内容を理解し、臨床現場で活かすことができる。				
留意点	『疑いを人に問うは知を求むる道なり。自ら心に道理を思ふは知を開く本なり。』				
授業外に必要な学習内容	普段から文章を読み書きし、国語力を鍛えること。				
授業内容	鍼灸師として鍼灸院での勤務経験を踏まえ、主に教科書を使用し、理解しておくべき内容を説明する。				

授業内容

日程	内 容	使用機材等
1	オリエンテーション	教科書・資料プリント
2	第1章 東洋医学の特徴 第2節 人体の見方	教科書・資料プリント
3	第1章 東洋医学の特徴 第2節 人体の見方	教科書・資料プリント
4	第1章 東洋医学の特徴 第2節 人体の見方	教科書・資料プリント
5	第1章 東洋医学の特徴 第3節 東洋医学的治療	教科書・資料プリント
6	第2章 生理と病理 第1節 生体物質と神	教科書・資料プリント
7	第2章 生理と病理 第1節 生体物質と神	教科書・資料プリント
8	第2章 生理と病理 第1節 生体物質と神	教科書・資料プリント
9	第2章 生理と病理 第1節 生体物質と神	教科書・資料プリント
10	第2章 生理と病理 第1節 生体物質と神	教科書・資料プリント
11	第2章 生理と病理 第1節 生体物質と神	教科書・資料プリント
12	第2章 生理と病理 第1節 生体物質と神	教科書・資料プリント
13	第2章 生理と病理 第1節 生体物質と神	教科書・資料プリント
14	第2章 生理と病理 第1節 生体物質と神	教科書・資料プリント
15	第2章 生理と病理 第2節 蔵象	教科書・資料プリント

授業内容

日 程	内 容	使用機材等
16	第2章 生理と病理 第2節 蔵象	教科書・資料プリント
17	総合授業	学判試問題用紙
18	期末試験	学生証・筆記用具
19	試験解説(追・再試験)	期末試験問題用紙
20	第2章 生理と病理 第2節 蔵象	教科書・資料プリント
21	第2章 生理と病理 第2節 蔵象	教科書・資料プリント
22	第2章 生理と病理 第2節 蔵象	教科書・資料プリント
23	第2章 生理と病理 第2節 蔵象	教科書・資料プリント
24	第2章 生理と病理 第2節 蔵象	教科書・資料プリント
25	第2章 生理と病理 第2節 蔵象	教科書・資料プリント
26	第2章 生理と病理 第2節 蔵象	教科書・資料プリント
27	第2章 生理と病理 第2節 蔵象	教科書・資料プリント
28	第2章 生理と病理 第2節 蔵象	教科書・資料プリント
29	第2章 生理と病理 第2節 蔵象	教科書・資料プリント
30	第2章 生理と病理 第2節 蔵象	教科書・資料プリント
31	第2章 生理と病理 第2節 蔵象	教科書・資料プリント
32	第2章 生理と病理 第2節 蔵象	教科書・資料プリント
33	第2章 生理と病理 第2節 蔵象	教科書・資料プリント
34	総合学習	学判試問題用紙
35	第2章 生理と病理 第3節 経絡	教科書・資料プリント
36	第2章 生理と病理 第3節 経絡	教科書・資料プリント
37	期末試験	学生証・筆記用具
38	試験解説(追・再試験)	期末試験問題用紙

<2024年度>

授業要項

科 目	経絡経穴概論 I	学科名	はりきゅう	履修年次	1年次
		教授法	講義	単位数コマ	3単位 (38 コマ)
教 員	角 澤 隆	領域	専門	鍼灸院	あり
教科書	新版 経絡経穴概論 教科書執筆小委員会 著 医道の日本社				
参考書	東洋医学の教科書 (ナツメ社)				
成績評価	出席率、授業態度、小テスト、定期試験(取穴を含む)などにより総合的に評価。				
評価基準	学則に準じて評価。				
到達目標	経絡・経穴の全体像を把握し、確実に各経穴の取穴部位が理解できる。				
留意点	学習者の興味を喚起し、学習意欲の向上に努める。				
授業外に必要な学習内容	前日までに前回の内容を復習して、小テストに対する準備を心掛けること。				
授業内容	鍼灸師として鍼灸院での勤務経験を踏まえ、教科書を中心に各経穴を解説。また、体表解剖を理解しながら各経絡ごとに取穴を行い、小テストを実施する。				

授業内容

日 程	内 容	使用機材等
1	経絡・経穴の基礎 / 経絡・経穴の誕生	書画カメラ
2	臓腑の概要	〃
3	経絡の概要	〃
4	経穴の概要	〃
5	経穴の概要	〃
6	経穴の概要	〃
7	経穴の概要	〃
8	経脈・経穴 / 経穴の取り方に必要な用語	〃
9	十四経脈とその経穴	〃
10	督脈 概説	〃
11	督脈 概説・取穴	〃
12	任脈 概説	〃
13	任脈 概説・取穴	〃
14	手太陰肺経 概説	〃
15	手太陰肺経 概説・取穴	〃

授業内容

日 程	内 容	使用機材等
16	手陽明大腸経 概説	〃
17	手陽明大腸経 概説・取穴	〃
18	取穴実技テスト（予定）	取穴シール
19	前期 期末試験（筆記）	
20	前期期末試験返却・解説 / 前期 総合復習	書画カメラ
21	前期 総合復習	〃
22	足陽明胃経 概説	〃
23	足陽明胃経 概説	〃
24	足陽明胃経 概説	〃
25	足陽明胃経 概説・取穴	〃
26	足太陰脾経 概説	〃
27	足太陰脾経 概説	〃
28	足太陰脾経 概説・取穴	〃
29	手少陰心経 概説	〃
30	手少陰心経 概説・取穴	〃
31	手太陽小腸経 概説	〃
32	手太陽小腸経 概説	〃
33	手太陽小腸経 概説・取穴	〃
34	足太陽膀胱経 概説	〃
35	足太陽膀胱経 概説	〃
36	後期 期末試験（筆記）	
37	取穴実技テスト	取穴シール
38	後期期末試験返却・解説	書画カメラ

<2024年度>

授業要項

科目	触察解剖	学科名	はりきゅう	履修年次	1年次
		教授法	実技	単位数コマ	2単位(30コマ)
教員	角澤 隆	領域	専門	実務経験	鍼灸院
教科書	機能解剖学的 触診技術 メジカルビュー社 / 『経絡経穴概論』教科書執筆小委員会著 医道の日本社				
参考書	特になし				
成績評価	各試験・出席・提出物などを総合して判断する。				
評価基準	学則に準じて評価。				
到達目標	体表から触れられる解剖学的指標の知識を身につけると共に、経絡を観察し取穴・切経を習得する。				
留意点	学習者の興味を喚起し、学習意欲の向上に努める。				
授業外に必要な学習内容	前日までに前回の内容を復習をして、触察方法のトレーニングを積み重ねること。				
授業内容	授業の前半は講義形式、後半は学生同士ペアになり、鍼灸師として鍼灸院での勤務経験を踏まえ、お互いに人体各部位を体表から触れて解剖学的知識を身につけると同時に、経穴部位も確認する。				

授業内容

日 程	内 容	使用機材等
1	オリエンテーション	書画カメラ
2	脊柱・腰部触察	〃
3	棘突起の診方	〃
4	棘突起・肩甲骨・腸骨触察	〃
5	棘突起・肩甲骨・腸骨・背部の触察	〃
6	胸骨体・鎖骨触察	〃
7	胸部触察の復習	〃
8	背部触察	〃
9	上腕部触察	〃
10	上腕部・前腕部触察	〃
11	前腕部触察	〃
12	手関節部触察	〃
13	上肢の復習	〃
14	頸部・肩部触察	〃
15	〃	〃

授業内容

日 程	内 容	使用機材等
16	顔面部・頭部触察	〃
17	股関節・臀部触察	〃
18	〃	〃
19	前期末テスト	〃
20	膝蓋骨触察	〃
21	大腿部触察	〃
22	下腿部触察	〃
23	足部触察	〃
24	背部・側胸部触察	〃
25	後仙骨孔部触察	〃
26	総合復習①	〃
27	総合復習②	〃
28	総合復習③	〃
29	後期末テスト	〃
30	まとめ	〃

<2024年度>

授業要項

科目	はり・きゅう実習1	学科名	はりきゅう	履修年次	1年次
		教授法	実習	単位数コマ	2単位(30コマ)
教員	奥田 望	領域	専門	実務経験	鍼灸院
教科書	『はりきゅう実技 基礎編』東洋療法学校協会編 医道の日本社				
参考書	『はりきゅう理論』東洋療法学校協会編 医道の日本社 『治療家の手の作り方』六然社 など				
成績評価	学則規定に基づく。				
評価基準	定期試験、出欠席、提出物などの総合評価とし、学則に定める試験評価に準ずる。				
到達目標	基礎的な知識と刺鍼技術を習得する。鍼を体表の指標・経穴に従って適切・安全に刺入できる。身につけた技術をもとに東洋医学の治療感について学ぶ。				
留意点	全出席を基本とする。授業の進捗状態で内容に変更があります。				
授業外に必要な学習内容	練習は継続して行うこと。				
授業内容	鍼灸師として鍼灸院での勤務経験を踏まえ、衛生管理・リスク管理を身につけ、鍼に関する基礎知識・技術について学ぶ。 銀鍼中心に物・自分・対人などで基礎練習を行う。 人の診方、触り方、反応の取り方を学び、治療や臨床に結び付くようにする。				

授業内容

日 程	内 容	使用機材等
1	オリエンテーション リスク管理・感染対策・片手挿管	
2	鍼の基礎知識・刺鍼の方式と術式 片手挿管	
3	特殊鍼法・鍼の基本操作 鍼枕への刺鍼	
4	鍼の基本操作 鍼枕への刺鍼	
5	鍼の基本操作 鍼枕・ロールペーパーへの刺鍼	
6	鍼の基本操作 鍼枕・ロールペーパー、きり板への刺鍼	
7	鍼の基本操作・鍼枕への刺鍼 浮きもの通し	
8	鍼の基本操作 自分への刺鍼	
9	鍼の基本操作 自分への刺鍼	
10	鍼の基本操作 自分への刺鍼	
11	鍼の基本操作 自分・対人への刺鍼	
12	定期試験	
13	定期試験・振り返り	
14	鍼の基本操作 対人への刺鍼	
15	鍼の基本操作 対人への刺鍼	

授業内容

日 程	内 容	使用機材等
16	鍼の基本操作 対人への刺鍼	
17	鍼の基本操作 対人への刺鍼	
18	鍼の基本操作 対人への刺鍼	
19	鍼の基本操作 対人への刺鍼	
20	鍼の基本操作 対人への刺鍼	
21	鍼の基本操作 対人への刺鍼	
22	鍼の基本操作 対人への刺鍼	
23	鍼の基本操作 対人への刺鍼	
24	鍼の基本操作 対人への刺鍼	
25	定期試験	
26	定期試験・振り返り	
27	鍼の基本操作 対人への刺鍼	
28	鍼の基本操作 対人への刺鍼	
29	鍼の基本操作 対人への刺鍼	
30	鍼の基本操作 対人への刺鍼	

<2024年度>

授業要項

科目	はり・きゅう実習2	学科名	はりきゅう	履修年次	1年次
		教授法	実習	単位数コマ	2単位(30コマ)
教員	奥田 望	領域	専門	実務経験	鍼灸院
教科書	『はりきゅう実技 基礎編』東洋療法学校協会編 医道の日本社				
参考書	『はりきゅう理論』東洋療法学校協会編 医道の日本社 『治療家の手の作り方』六然社 など				
成績評価	学則規定に基づく。				
評価基準	定期試験、出欠席、提出物などの総合評価とし、学則に定める試験評価に準ずる。				
到達目標	基礎的な知識と施灸技術を習得する。灸を体表の指標・経穴に従って適切・安全に施灸できる。身につけた技術をもとに東洋医学の治療感について学ぶ。				
留意点	全出席を基本とする。授業の進捗状態で内容に変更があります。				
授業外に必要な学習内容	練習は継続して行うこと。				
授業内容	鍼灸師として鍼灸院での勤務経験を踏まえ、衛生管理・リスク管理を身につけ、灸に関する基礎知識・技術について学ぶ。 米粒大を中心に物・自分・対人などで基礎練習を行う。 人の診方、触り方、反応の取り方を学び、治療や臨床に結び付けようとする。				

授業内容

日 程	内 容	使用機材等
1	オリエンテーション・リスク管理・感染対策	
2	灸の基礎知識・灸術の種類 艾炷の作製（ゴム板上・無点火）	
3	灸の基礎知識・灸術の種類 艾炷の作製（ゴム板上・無点火）	
4	灸の基礎知識・灸術の種類 艾炷の作製（ゴム板上・無点火）	
5	艾炷の作製（ゴム板上・無点火・点火）	
6	艾炷の作製（ゴム板上・無点火・点火）	
7	艾炷の作製（ゴム板上・無点火・点火）	
8	艾炷の作製 自分への施灸	
9	艾炷の作製 自分への施灸	
10	艾炷の作製 自分への施灸	
11	艾炷の作製 自分・対人への施灸	
12	定期試験	
13	定期試験・振り返り	
14	艾炷の作製 対人への施灸	
15	艾炷の作製 対人への施灸	

授業内容

日 程	内 容	使用機材等
16	艾炷の作製 対人への施灸	
17	艾炷の作製 対人への施灸	
18	艾炷の作製 対人への施灸	
19	艾炷の作製 対人への施灸	
20	艾炷の作製 対人への施灸	
21	艾炷の作製 対人への施灸	
22	艾炷の作製 対人への施灸	
23	艾炷の作製 対人への施灸	
24	艾炷の作製 対人への施灸	
25	定期試験	
26	定期試験・振り返り	
27	艾炷の作製 対人への施灸	
28	艾炷の作製 対人への施灸	
29	艾炷の作製 対人への施灸	
30	艾炷の作製 対人への施灸	

<2024年度>

授業要項

科 目	臨床実習 1	学科名	はりきゅう	履修年次	1年次
		教授法	実習	単位数コマ	1単位(23コマ)
教 員	林 陽子	領域	専門	実務経験	鍼灸院
教科書	『はりきゅう実技』『はりきゅう理論』等				
参考書	配布資料 *『医療面接』丹澤章八著 『戦略として医療面接術』児玉知之著				
成績評価	科目評価試験、出席等で判断する				
評価基準	学則規定に基づく				
到達目標	2年次、3年次の臨床実習を目標として、診療や鍼灸施術に際しての留意点、医療面接などの基礎知識を学習する				
留意点	全出席を基本とする				
授業外に必要な学習内容	授業内容を復習する 対面した相手に興味を持って会話することを意識する				
授業内容	患者さんと施術者が信頼関係を結び、良好な治療効果を得るための基本的な流れを知る。 カルテの記載について知る				

授業内容

日 程	内 容	使用機材等
1	臨床実習について	配布資料 * 以下同様
2	リスク管理の基本	
3	鍼治療の注意点	
4	灸治療の注意点	
5	感染症対策	
6	消毒について	
7	医療面接の項目を知る	
8	カルテ記載について	
9	医療面接の流れを理解する(1)	
10	医療面接の流れを理解する(2)	
11	医療面接をしてみよう：学生同士で模擬面接(1)	
12	医療面接をしてみよう：学生同士で模擬面接(2)	
13	医療面接をしてみよう：学生同士で模擬面接(3)	
14	医療面接をしてみよう：学生同士で模擬面接(4)	
15	3年生の臨床実習見学	

授業内容

日 程	内 容	使用機材等
16	3年生の臨床実習見学	
17	3年生の臨床実習見学	
18	3年生の臨床実習見学	
19	実技試験①	
20	実技試験②	
21	実技試験③	
22	筆記試験	
23	解答解説	

<2024年度>

授業要項

科目	総合学習 1	学科名	はりきゅう	履修年次	1 年次
		教授法	講義	単位数コマ	3 単位 (38 コマ)
教員	はりきゅう学科専任教員	領域	専門	実務経験	鍼灸院
教科書	解剖学、生理学、関係法規、東洋医学概論、はりきゅう理論、経絡経穴概論、はりきゅう実技など				
参考書	鍼灸医療安全ガイドライン、鍼灸学基礎編、機能解剖的触診技術、基本としくみがよくわかる東洋医学の教科書など				
成績評価	出席、試験、提出物などを総合して評価する。				
評価基準	出席、試験、提出物など総合し、学校の定める成績評価に準ずる。				
到達目標	西洋医学と東洋医学における人体の機能・構造を理解し、鍼灸治療における臨床的な技術を習得する。				
留意点	授業内容によって教室や実技室などを使用する。進捗状況によって内容の変更することもある。				
授業外に必要な学習内容	コミュニケーション能力を高めよう。				
授業内容	鍼灸師として鍼灸院での勤務経験を踏まえ、今まで学習した科目を含め総合的に学習する。				

授業内容

日 程	内 容	使用機材等
1	オリエンテーション	
2	オリエンテーション	
3	チームワーク研修など	
4	チームワーク研修など	
5	チームワーク研修など	
6	チームワーク研修など	
7	総合学力判定試験	
8	総合学力判定試験	
9	解剖学、生理学、東洋医学概論、経絡経穴概論など	
10	解剖学、生理学、東洋医学概論、経絡経穴概論など	
11	解剖学、生理学、東洋医学概論、経絡経穴概論など	
12	解剖学、生理学、東洋医学概論、経絡経穴概論など	
13	解剖学、生理学、東洋医学概論、経絡経穴概論など	
14	解剖学、生理学、東洋医学概論、経絡経穴概論など	
15	解剖学、生理学、東洋医学概論、経絡経穴概論など	

授業内容

日 程	内 容	使用機材等
16	解剖学、生理学、東洋医学概論、経絡経穴概論など	
17	解剖学、生理学、東洋医学概論、経絡経穴概論など	
18	解剖学、生理学、東洋医学概論、経絡経穴概論など	
19	解剖学、生理学、東洋医学概論、経絡経穴概論など	
20	解剖学、生理学、東洋医学概論、経絡経穴概論など	
21	解剖学、生理学、東洋医学概論、経絡経穴概論など	
22	解剖学、生理学、東洋医学概論、経絡経穴概論など	
23	解剖学、生理学、東洋医学概論、経絡経穴概論など	
24	解剖学、生理学、東洋医学概論、経絡経穴概論など	
25	解剖学、生理学、東洋医学概論、経絡経穴概論など	
26	解剖学、生理学、東洋医学概論、経絡経穴概論など	
27	総合学力判定試験	
28	総合学力判定試験	
29	チームワーク研修など	
30	チームワーク研修など	
31	チームワーク研修など	
32	チームワーク研修など	
33	チームワーク研修など	
34	チームワーク研修など	
35	チームワーク研修など	
36	チームワーク研修など	
37	卒業見込み判定実技試験の見学など	
38	卒業見込み判定実技試験の見学など	

<2024年度>

授業要項

科目	研究法概論	学科名	はりきゅう	履修年次	2年次
		教授法	講義	単位数コマ	5単位(38コマ)
教員	小川貴志子	領域	基礎	実務経験	大学教諭
教科書	特になし				
参考書	特になし				
成績評価	グループワークや個人による授業内での発表、レポート(小レポートも含む)				
評価基準	学則に準じる				
到達目標	科学的手法を学び、自分の考えを客観的事実に基づいて論理的に伝える方法を習得する				
留意点					
授業外に必要な学習内容	内容によっては、授業時間外での計測、論文作成が必要となる				
授業内容	研究を行う上で必要な技術を習得し、授業内で行うプレゼンテーションやレポート、論文の書き方に関する基礎を身につけることで論理的に自身の考えを述べられるようになることを目標に授業を展開する。研究計画、実験調査、統計処理方法を学修する。				

授業内容

日程	内 容	使用機材等
1	オリエンテーション	
2	研究の基礎—研究論文の基礎知識、研究デザインの重要性について	
3	論文の読み方と検索方法	
4	実験実習① — グループワークによるヒトの形態や動きの計測	
5	データの整理と解析方法 —エクセルを用いた実践—	
6	データのまとめ方とグラフ作成	
7	プレゼンテーション資料の作成 —パワーポイントを用いた実践—	
8	実験実習② —グループワークによる課題研究の決定と計画書の作成—	
9	計測データの解釈とその背景の作成	
10	データ解析方法の学習と作成	
11	グループ発表②	
12	研究計画書の発表会	
13	被験者への説明書と同意書の作成	
14	被験者集めと同意書の回収	
15	研究計画の方法に基づく実験・調査の開始	

授業内容

日 程	内 容	使用機材等
16	実験調査の進捗状況（グループ発表）①	
17	実験調査の進捗状況（グループ発表）②	
18	実験調査の進捗状況（グループ発表）③	
19	前期のまとめ ー実験結果の作成ー	
20	計測データの解釈と統計処理方法（平均値と標準偏差）	
21	計測データの解釈と統計処理方法（平均値の差の検定）	
22	計測データの解釈と統計処理方法（回帰分析）	
23	計測したデータの検討、研究計画の修正①	
24	計測したデータの検討、研究計画の修正②	
25	データ解析・データの解釈と結果の記述	
26	データ解析・データの解釈と考察の記述	
27	研究の抄録作成	
28	研究の抄録修正①	
29	研究の抄録修正②	
30	研究抄録の提出	
31	パワーポイントによる研究発表ファイル作成①	
32	パワーポイントによる研究発表ファイル作成②	
33	パワーポイントによる研究発表ファイル作成③	
34	研究の発表会 ①	
35	研究の抄録修正①	
36	研究の抄録修正②	
37	研究の発表会 ②	
38	まとめ	

<2024年度>

授業要項

科目	解剖学 3	学科名	はりきゅう	履修年次	2年次
		教授法	講義	単位数コマ	2単位(25コマ)
教員	林 陽子	領域	専門基礎	実務経験	鍼灸院
教科書	『解剖学 第2版』東洋療法学校協会編医歯薬出版				
参考書	『Qシリーズ新解剖学』日本医事新報 『生理学 第2版』東洋療法学校協会 『グレイ解剖』『プロメテウス解剖学』				
成績評価	中間・期末の定期試験、出席等で判定する。				
評価基準	学則規定に基づく。				
到達目標	人体の臓器組織細胞の形態と機能を理解し、他の基礎科目や臨床科目を理解する礎を築く。				
留意点	教科書に加えて、諸書籍のイラストなどを参考に理解を深めてほしい。				
授業外に必要な学習内容	1) 何度も教科書を眺め、文字と図を馴染ませてください。 2) 毎日復習時間を作ってください。				
授業内容	鍼灸師として鍼灸院での勤務経験を踏まえ、第6章生殖器系、第7章内分泌系、第8章神経系の脳神経、第9章感覚器系について学ぶ。				

授業内容

日 程	内 容	使用機材等
1	第5章 泌尿器系 1. 腎臓	・ 模型 ・ プリント
2	2. 尿路	・ 模型 ・ プリント ・ 小テスト 以下同様
3	第6章 生殖器系 1. 男性生殖器 1) 精巣 2) 精路	
4	3) 外生殖器 2. 女性生殖器 1) 卵巣	
5	2) 卵管 3) 子宮 4) 膣 5) 外生殖器	
6	3. 受精と発生	
7	第7章 内分泌系 1. 下垂体	
8	2. 松果体 3. 甲状腺	
9	4. 上皮小体 5. 副腎①	
10	5. 副腎②	

授業内容

日 程	内 容	使用機材等
11	6. 膵臓	
12	7. 性腺	
13	中間試験 第9章 感覚器 1. 視覚器 1) 眼球①	
14	中間試験解答解説 1) 眼球①	
15	2) 眼球の付属器	
16	2. 平衡感覚器 1) 外耳 2) 中耳①	
17	2. 平衡感覚器 2) 中耳 3) 内耳①	
18	3) 内耳②	
19	3. 味覚器①	
20	3. 味覚器②	
21	4. 嗅覚器①	
22	4. 嗅覚器②	
23	試験前まとめ	
24	前期末試験	
25	解答解説	

<2024年度>

授業要項

科 目	生 理 学 3	学科名	はりきゅう	履修年次	2年次
		教授法	講義	単位数コマ	1単位(13コマ)
教 員	児玉 農	領域	専門基礎	実務経験	鍼灸院
教科書	『解剖学第2版』『生理学第2版』東洋療法学校協会編 医歯薬出版				
参考書	『解剖学第2版』『生理学第2版』東洋療法学校協会編 医歯薬出版				
成績評価	定期試験にて成績を評価する。				
評価基準	学則に基づく。				
到達目標	人体の正常な構造と機能を理解する。				
留意点	その他の教科の基礎となる科目であるため、その内容の把握に努めること。				
授業外に必要な学習内容	各自の基礎分野の理解度の把握と弱点となる分野を明確にする。 各授業前に自身の弱点部分を一度熟読する。				
授業内容	鍼灸師として鍼灸院での勤務経験を踏まえ、1年次の内容を復習しながら、2年次で履修する他科目との関連が深いものについて学習する。				

授業内容

日 程	内 容	使用機材等
1	神経系の生理学	
2	神経系の生理学	
3	神経系の生理学	
4	神経系の生理学	
5	感覚の生理学	
6	感覚の生理学	
7	感覚の生理学	
8	筋と運動の生理学	
9	筋と運動の生理学	
10	筋と運動の生理学	
11	筋と運動の生理学	
12	期末試験	
13	試験解説	

<2024年度>

授業要項

科目	病理学概論	学科名	はりきゅう	履修年次	2年次
		教授法	講義	単位数コマ	2単位(25コマ)
教員	小林 春代	領域	専門基礎	実務経験	鍼灸院
教科書	『病理学概論 第2版』東洋療法学校協会編 医歯薬出版株式会社				
参考書	『解剖学第2版』、『生理学第3版』東洋療法学校協会編 医歯薬出版株式会社				
成績評価	中間試験、期末試験、出席等から総合評価し、学校の定める試験評価に準ずる				
評価基準	学則規定に基づく				
到達目標	人体に生ずる病的な状態、すなわち病気(疾病)の本体を追求し、形態学的・機能的な変化について知る				
留意点	情報量が多いため、こまめに情報の整理を行いながら繰り返し復習し、知識の定着を図ること				
授業外に必要な学習内容	基礎医学である解剖学、生理学の知識が必要となるため、事前に復習を行うこと				
授業内容	鍼灸師として鍼灸院での勤務経験を踏まえ、解剖学・生理学の知識をもとに人体に生じる病的な状態について教授する				

授業内容

日程	内容	使用機材等
1	オリエンテーション 第1章、第2章	
2	第3章 病因	
3	第3章 病因	
4	第3章 病因	
5	第4章 循環障害	
6	第4章 循環障害	
7	第4章 循環障害、中間試験	
8	第5章 退行性病変	
9	第5章 退行性病変	
10	第6章 進行性病変	
11	第6章 進行性病変	
12	前期期末試験	
13	第7章 炎症	

授業内容

日 程	内 容	使用機材等
14	第7章 炎症	
15	第8章 腫瘍	
16	第8章 腫瘍	
17	第8章 腫瘍	
18	中間試験、第9章 免疫異常・アレルギー	
19	第9章 免疫異常・アレルギー	
20	第9章 免疫異常・アレルギー	
21	第10章 先天性異常	
22	第10章 先天性異常	
23	まとめ	
24	後期期末試験	
25	試験解説	

<2024年度>

授業要項

科目	臨床医学総論	学科名	はりきゅう	履修年次	2年次
		教授法	講義	単位数コマ	3単位(38コマ)
教員	深澤 栄一	領域	専門基礎	実務経験	鍼灸院
教科書	臨床医学総論(医歯薬出版)				
参考書					
成績評価	学期末試験				
評価基準	学期末試験において60%以上をもって単位取得とする				
到達目標	身体各部の検査法を理解することにより、鍼灸の適用、不適用を判断できるようにすること				
留意点					
授業外に必要な学習内容					
授業内容	鍼灸師として鍼灸院での勤務経験を踏まえ、教科書を中心に板書、パワーポイントを併用し、解剖、生理学を取り入れながら行なう				

授業内容

日程	内容	使用機材等
1	ガイダンス、 診察概要 (意義、心得、用語、種類、順序)	パワーポイント
2	診察の方法 (医療面接)	パワーポイント
3	診察の方法 (視診、触診、打診、聴診、身体測定)	パワーポイント
4	診察の方法 (神経系の診察) 生命徴候の診察 (体温、脈拍)	パワーポイント
5	生命徴候の診察 (血圧、呼吸)	パワーポイント
6	全身の診察 (顔貌、顔色、精神状態、言語)	パワーポイント
7	全身の診察 (身体測定、体型、体格)	パワーポイント
8	全身の診察 (栄養状態、姿勢と体位)	パワーポイント
9	全身の診察 (歩行、皮膚、粘膜、皮下組織、)	パワーポイント
10	全身の診察 (つめ、リンパ、その他)	パワーポイント
11	局所の診察 (頭部、顔面、眼)	パワーポイント
12	局所の診察 (鼻、耳、口腔)	パワーポイント
13	局所の診察 (頸部、胸部、乳房、肺、胸膜)	パワーポイント
14	局所の診察 (心臓、腹部①)	パワーポイント
15	局所の診察 (腹部②)	パワーポイント

授業内容

日 程	内 容	使用機材等
16	局所の診察（背部、四肢①）	パワーポイント
17	前半定期試験	
18	試験評価 局所の診察（四肢②、下肢）	パワーポイント
19	神経系の診察（感覚検査① 表在性知覚まで）	パワーポイント
20	神経系の診察（感覚検査②）	パワーポイント
21	神経系の診察（反射①）	パワーポイント
22	神経系の診察（反射②）	パワーポイント
23	神経系の診察（脳神経系の検査）	パワーポイント
24	神経系の診察（髄膜刺激症状検査、その他の検査）	パワーポイント
25	運動機能検査（運動麻痺）	パワーポイント
26	運動機能検査（筋肉の異常）	パワーポイント
27	運動機能検査（不随運動）	パワーポイント
28	運動機能検査（協調運動、起立と歩行）	パワーポイント
29	運動機能検査（徒手による整形外科的検査法①）	パワーポイント
30	運動機能検査（徒手による整形外科的検査法②）	パワーポイント
31	その他の検査法（救急、女性、小児、老人） 臨床検査法（一般検査 尿、便）	パワーポイント
32	臨床検査法（一般検査 血液）	パワーポイント
33	臨床検査法（血液生化学検査 ①）	パワーポイント
34	臨床検査法（血液生化学検査 ②）	パワーポイント
35	臨床検査法（生理学的検査 ）	パワーポイント
36	治療学 1	パワーポイント
37	後半定期試験	
38	試験評価 臨床心理	パワーポイント

<2024年度>

授業要項

科目	臨床医学各論 1	学科名	はりきゅう	履修年次	2年次
		教授法	講義	単位数コマ	3単位(38コマ)
教員	八重樫 久都	領域	専門基礎分野	実務経験	鍼灸院
教科書	臨床医学各論 第2版 東洋療法学校協会編 医歯薬出版株式会社				
参考書	生理学 第2版 東洋療法学校協会編 医歯薬出版株式会社 臨床医学総論 第2版 東洋療法学校協会編 医歯薬出版株式会社				
成績評価	小テスト、前期試験、後期試験および授業態度などを総合して評価する。				
評価基準	学則規定に基づく。				
到達目標	学習する疾患や症候群について理解を深めるとともに、鍼灸臨床にいきる知識を身につける。				
留意点	定期的に小テストを行います。解剖学、生理学を理解しているものとして授業を進めます。				
授業外に必要な学習内容	本授業を受けるにあたり基礎知識として解剖学、生理学の理解が必要となりますので復習をしてください。授業後は授業で行った内容について教科書および授業資料で復習をしてください。				
授業内容	鍼灸師として鍼灸院での勤務経験を踏まえ次の内容を教授する。 感染症、消化器疾患、肝・胆・膵疾患、呼吸器疾患、腎・尿器疾患、内分泌疾患、代謝・栄養疾患、整形外科疾患の病態や症状、診断、治療等について学ぶとともに、それに付随した解剖学・生理学の内容を復習しながら、理解を深める。				

授業内容

日 程	内 容	使用機材等
1	オリエンテーション 第1章 感染症（総論）	
2	第1章 感染症（細菌感染症）	
3	第1章 感染症（ウイルス感染症）	
4	第1章 感染症（性感染症・その他）	
5	第2章 消化器疾患（口腔・食道疾患）	
6	第2章 消化器疾患（胃・十二指腸疾患）	
7	第2章 消化器疾患（腸疾患）	
8	第2章 消化器疾患（腹膜疾患・その他）	
9	第3章 肝・胆・膵疾患（急性肝炎）	
10	第3章 肝・胆・膵疾患（慢性肝炎）	
11	第3章 肝・胆・膵疾患（肝硬変・肝癌）	
12	第3章 肝・胆・膵疾患（胆道疾患・膵臓疾患）	
13	第4章 呼吸器疾患（感染性呼吸器疾患）	
14	第4章 呼吸器疾患（慢性呼吸器疾患）	
15	第4章 呼吸器疾患（拘束性呼吸器疾患）	

授業内容

日 程	内 容	使用機材等
16	第4章 呼吸器疾患（腫瘍性疾患・その他）	
17	前期本試験	
18	面談・試験解説	
19	第5章 腎・尿器疾患（原発性糸球体腎炎）	
20	第5章 腎・尿器疾患（腎不全）	
21	第5章 腎・尿器疾患（感染症）	
22	第5章 腎・尿器疾患（腫瘍性疾患）	
23	第5章 腎・尿器疾患（結石症・前立腺疾患）	
24	第6章 内分泌疾患（下垂体疾患）	
25	第6章 内分泌疾患（甲状腺疾患・副甲状腺疾患）	
26	第6章 内分泌疾患（副腎疾患）	
27	第6章 内分泌疾患（膵内分泌疾患）	
28	第7章 代謝・栄養疾患（糖代謝異常）	
29	第7章 代謝・栄養疾患（脂質代謝異常）	
30	第7章 代謝・栄養疾患（尿酸代謝異常・ビタミン欠乏症）	
31	第7章 代謝・栄養疾患（その他の代謝異常症）	
32	第8章 整形外科疾患（関節疾患）	
33	第8章 整形外科疾患（筋腱疾患）	
34	第8章 整形外科疾患（形態異常・脊椎疾患）	
35	第8章 整形外科疾患（脊髄損傷・外傷）	
36	第8章 整形外科疾患（スポーツ傷害・その他の整形外科疾患）	
37	後期本試験	
38	試験解説・総復習	

<2024年度>

授業要項

科目	あはき史	学科名	はりきゅう	履修年次	2年次
		教授法	講義	単位数コマ	1単位(13コマ)
教員	児玉 農	領域	専門基礎	実務経験	鍼灸院
教科書	東洋療法学校協会編:新版 東洋医学概論 医道の日本社 ・ 中川米造監修:医療概論 医歯薬出版株式会社				
参考書	特になし				
成績評価	定期試験などにより、総合的に行う。				
評価基準	学則に基づく。				
到達目標	東洋医学と西洋医学との相互理解を深める。				
留意点	偏った知識や理解、苦手意識を起こさせない。				
授業外に必要な学習内容	現代の医療との統合を踏まえ、研究及び論文をみることで東洋医学と西洋医学との溝を埋める。				
授業内容	鍼灸師として鍼灸院での勤務経験を踏まえ、現代社会の現状と課題を踏まえて、あん摩マッサージ指圧師、はり師、きゆう師のはたすべき役割について教授する。				

授業内容

日 程	内 容	使用機材等
1	オリエンテーション	
2	東洋医学の概要	
3	東洋医学の概要	
4	東洋医学の概要	
5	東洋医学と現代医療との統合について	
6	東洋医学と現代医療との統合について	
7	東洋医学と現代医療との統合について	
8	東洋医学と現代医療との統合について	
9	東洋医学と現代医療との統合について	
10	東洋医学と現代医療との統合について	
11	東洋医学と現代医療との統合について	
12	期末試験	
13	試験解説	

<2024年度>

授業要項

科目	東洋医学概論 2	学科名	はりきゅう	履修年次	2 年次
		教授法	講義	単位数コマ	3 単位 (38 コマ)
教員	藤井 栄二	領域	専門	実務経験	鍼灸院
教科書	教科書執筆小委員会著:東洋医学概論 株式会社医道の日本社				
参考書	天津中医薬大学、学校法人後藤学園:針灸学[基礎編] 第三版 東洋学術出版社				
成績評価	定期試験により行う。				
評価基準	S(90点以上)、A(80点以上)、B(70点以上)、C(60点以上)、D(60点以下)で表わし、C以上を合格とする。				
到達目標	授業内容を理解し、臨床現場で活かすことができる。				
留意点	『疑いを人に問うは知を求むる道なり。自ら心に道理を思ふは知を開く本なり。』				
授業外に必要な学習内容	普段から文章を読み書きし、国語力を鍛えること。				
授業内容	鍼灸師として鍼灸院での勤務経験を踏まえ、主に教科書を使用し、理解しておくべき内容を説明する。				

授業内容

日 程	内 容	使用機材等
1	第2章 生理と病理 第3節 経絡	教科書・資料プリント
2	第2章 生理と病理 第4節 病因病機	教科書・資料プリント
3	第2章 生理と病理 第4節 病因病機	教科書・資料プリント
4	第2章 生理と病理 第4節 病因病機	教科書・資料プリント
5	第3章 東洋医学の思想 第1節 陰陽学説	教科書・資料プリント
6	第3章 東洋医学の思想 第1節 陰陽学説	教科書・資料プリント
7	第3章 東洋医学の思想 第2節 五行学説	教科書・資料プリント
8	第3章 東洋医学の思想 第2節 五行学説	教科書・資料プリント
9	第4章四診 第1節望診	教科書・資料プリント
10	第4章四診 第2節聞診	教科書・資料プリント
11	第4章四診 第2節聞診	教科書・資料プリント
12	第4章四診 第3節問診	教科書・資料プリント
13	第4章四診 第3節問診	教科書・資料プリント
14	第4章四診 第3節問診	教科書・資料プリント
15	第4章四診 第3節問診	教科書・資料プリント

授業内容

日 程	内 容	使用機材等
16	第4章四診 第3節問診	教科書・資料プリント
17	総合学習	学判試験問題用紙
18	期末試験	学生証・筆記用具
19	試験解説(追・再試験)	期末試験問題用紙
20	第4章四診 第4節切診	教科書・資料プリント
21	第4章四診 第4節切診	教科書・資料プリント
22	第4章四診 第4節切診	教科書・資料プリント
23	第4章四診 第4節切診	教科書・資料プリント
24	第4章四診 第4節切診	教科書・資料プリント
25	第4章四診 第5節四診合算	教科書・資料プリント
26	第5章弁証論治 第1節弁証	教科書・資料プリント
27	第5章弁証論治 第1節弁証	教科書・資料プリント
28	第5章弁証論治 第1節弁証	教科書・資料プリント
29	第5章弁証論治 第1節弁証	教科書・資料プリント
30	第5章弁証論治 第2節論治	教科書・資料プリント
31	第5章弁証論治 第2節論治	教科書・資料プリント
32	第5章弁証論治 第2節論治	教科書・資料プリント
33	第5章弁証論治 第2節論治	教科書・資料プリント
34	第5章弁証論治 第2節論治	教科書・資料プリント
35	第5章弁証論治 第2節論治	教科書・資料プリント
36	第5章弁証論治 第3節弁証論治の進め方と証の決定	教科書・資料プリント
37	期末試験	学生証・筆記用具
38	試験解説(追・再試験)	期末試験問題用紙

<2024年度>

授業要項

科目	経絡経穴概論Ⅱ	学科名	はりきゅう	履修年次	2年次
		教授法	講義	単位数コマ	3単位(38コマ)
教員	角澤 隆	領域	専門	実務経験	鍼灸院
教科書	新版 経絡経穴概論 教科書執筆小委員会 著 医道の日本社				
参考書	東洋医学の教科書 (ナツメ社)				
成績評価	1年次同様に出席率、授業態度、小テスト、定期試験(取穴を含む)などにより総合的に評価。				
評価基準	学則に準じて評価。				
到達目標	経絡・経穴の全体像を把握し、確実に各経穴の取穴部位が理解できる。				
留意点	学習者の興味を喚起し、学習意欲の向上に努める。				
授業外に必要な学習内容	前日までに前回の内容を復習して、小テストに対する準備を心掛けること。				
授業内容	鍼灸師として鍼灸院での勤務経験を踏まえ、教科書を中心に各経穴を解説。また、体表解剖を理解しながら各経絡ごとに取穴を行い、小テストを実施する。				

授業内容

日 程	内 容	使用機材等
1	足太陽膀胱経 概説	書画カメラ
2	足太陽膀胱経 概説	〃
3	足太陽膀胱経 概説	〃
4	足太陽膀胱経 概説・取穴	〃
5	足太陽膀胱経 概説・取穴	〃
6	足少陰腎経 概説	〃
7	足少陰腎経 概説	〃
8	足少陰腎経 概説・取穴	〃
9	手厥陰心包経 概説	〃
10	手厥陰心包経 概説・取穴	〃
11	手少陽三焦経 概説	〃
12	手少陽三焦経 概説	〃
13	手少陽三焦経 概説・取穴	〃
14	足少陽胆経 概説	〃
15	足少陽胆経 概説	〃

授業内容

日 程	内 容	使用機材等
16	足少陽胆経 概説・取穴	〃
17	足少陽胆経 概説・取穴	〃
18	足厥陰肝経 概説	〃
19	足厥陰肝経 概説・取穴	〃
20	前期 期末試験 (筆記 or 取穴)	
21	前期 期末試験 (筆記 or 取穴)	
22	前期期末試験返却・解説	書画カメラ
23	十四経の再確認	〃
24	奇経	〃
25	奇経	〃
26	奇穴	〃
27	奇穴	〃
28	経絡経穴の現代的研究	〃
29	経絡経穴の現代的研究	〃
30	経筋	〃
31	経別	〃
32	取穴練習	取穴シール
33	取穴練習	〃
34	補習・まとめ	書画カメラ
35	補習・まとめ	〃
36	後期 期末試験 (筆記 or 取穴)	
37	後期 期末試験 (筆記 or 取穴)	
38	後期期末試験返却・解説	書画カメラ

<2024年度>

授業要項

科目	診察法（現代医学的）	学科名	はりきゆう	履修年次	2年次
		教授法	実技	単位数コマ	2単位(30コマ)
教員	西岡岳之	領域	専門	実務経験	鍼灸院
教科書	1.「臨床医学総論」東洋療法学校協会編 医歯薬出版(株) 2.「臨床医学各論」東洋療法学校協会編 医歯薬出版(株)				
参考書	1. 開業鍼灸師のための診察法と治療法1～5; 出端昭男著(医道の日本社) 2. 教材・資料プリント配布				
成績評価	出席状況、授業態度などから総合評価し、学校の定める試験評価に準ずる。				
評価基準	同上				
到達目標	各疾患の病態生理を理解し、医療面接が的確に行える。 徒手検査を正しく実施し、陽性所見、臨床的意義を述べる事が出来る。				
留意点	1)はり及びきゆうの臨床における基本的臨床技能として重要な位置にある医療面接を習得するために、医療面接・コミュニケーション技法を理解する。 2)施術者としてお互いの立場を尊重した人間関係を構築して、適切な医療面接を習得するために、患者役と面接者役となってロールプレイを行い、医療面接技法を理解する。 3)はり及びきゆうの臨床に必要な身体診察を実践するために、身体診察技能を修得する。				
授業外に必要な学習内容	整形外科的疾患の病態生理の予習・復習				
授業内容	鍼灸師として鍼灸院での勤務経験を踏まえ、次のことを教授する。 はり臨床において、病態的的確な鑑別が必要である。その上で医療面接と身体診察が的確に行えることが重要である。本講座では、患者の主訴から病態把握を行い医療面接と身体診察の目的と意義並びにそれらの技術の基本を学んでいく。				

授業内容

日程	内 容		使用機材等
1	授業ガイダンス		PC・プロジェクター
2	腰痛・腰下肢痛の病態生理	腰痛の原因疾患が理解できる。	PC・プロジェクター
3	腰痛・腰下肢痛の診察①	主訴に対する主要疾患の特徴が説明できる。 主訴に対する問診事項の意義を理解して聴取できる。 主訴に対する身体診察の意義を理解して実践できる。 身体診察の陽性所見と臨床的意義を説明できる。 上記内容をロールプレイにて実践できる。	検査道具一式
4	腰痛・腰下肢痛の診察②		検査道具一式
5	腰痛・腰下肢痛の診察③		検査道具一式
6	頸上肢痛の病態生理	頸上肢痛の原因疾患が理解できる。	PC・プロジェクター
7	頸上肢痛の診察①	主訴に対する主要疾患の特徴が説明できる。 主訴に対する問診事項の意義を理解して聴取できる。 主訴に対する身体診察の意義を理解して実践できる。 身体診察の陽性所見と臨床的意義を説明できる。 上記内容をロールプレイにて実践できる。	検査道具一式
8	頸上肢痛の診察②		検査道具一式
9	頸上肢痛の診察③		検査道具一式
10	まとめ		検査道具一式
11	実技期末試験①		検査道具一式
12	実技期末試験フィードバック		検査道具一式
13	膝関節痛の病態生理	膝関節痛の原因疾患が理解できる。	PC・プロジェクター
14	膝関節痛の診察①	主訴に対する主要疾患の特徴が説明できる。 主訴に対する問診事項の意義を理解して聴取できる。 主訴に対する身体診察の意義を理解して実践できる。 身体診察の陽性所見と臨床的意義を説明できる。 上記内容をロールプレイにて実践できる。	検査道具一式
15	膝関節痛の診察②		検査道具一式
16	膝関節痛の診察③		検査道具一式

授業内容

日 程	内 容		使用機材等
17	肩関節痛の病態生理	肩関節痛の原因疾患が理解できる。	PC・プロジェクター
18	肩関節痛の診察①	主訴に対する主要疾患の特徴が説明できる。 主訴に対する問診事項の意義を理解して聴取できる。 主訴に対する身体診察の意義を理解して実践できる。 身体診察の陽性所見と臨床的意義を説明できる。 上記内容をロールプレイにて実践できる。	検査道具一式
19	肩関節痛の診察②		検査道具一式
20	肩関節痛の診察③		検査道具一式
21	まとめ		検査道具一式
22	実技期末試験②		検査道具一式
23	実技期末試験 フィードバック 臨床推論概論	臨床推論演習の概要を理解できる。	検査道具一式
24	臨床推論演習① (腰痛・腰下肢痛)	【グループワーク】 腰痛・腰下肢痛、頸上肢痛、膝関節痛、肩関節痛それぞれの現病歴の聴取事項、鑑別が必要な徒手検査項目を列挙できる。診察所見から病態を推察し、はき施術の適否を鑑別し、治療方針を列挙することができる。 安全な施術を実践できる。	
25	腰下肢痛へのアプローチ		
26	臨床推論演習② (頸上肢痛)		
27	頸上肢痛へのアプローチ		
28	臨床推論演習③ (膝関節痛)		
29	膝・肩関節へのアプローチ		
30	臨床推論演習④ (肩関節痛)		

<2024年度>

授業要項

科目	はり・きゅう実習3	学科名	はりきゅう	履修年次	2年次
		教授法	実習	単位数コマ	1単位(15コマ)
教員	奥田 望	領域	専門	実務経験	鍼灸院
教科書	『はりきゅう実技 基礎編』東洋療法学校協会編 医道の日本社				
参考書	『はりきゅう理論』東洋療法学校協会編 医道の日本社 『治療家の手の作り方』六然社 など				
成績評価	学則規定に基づく。				
評価基準	定期試験、出欠席、提出物などの総合評価とし、学則に定める試験評価に準ずる。				
到達目標	基礎的な知識と刺鍼・施灸技術を習得する。体表の指標・経穴に従って適切・安全に施術ができる。身につけた技術をもとに東洋医学の治療感について学ぶ。				
留意点	全出席を基本とする。授業の進捗状態で内容に変更があります。				
授業外に必要な学習内容	練習は継続して行うこと。				
授業内容	鍼灸師として鍼灸院での勤務経験を踏まえ、衛生管理・リスク管理を身につけ、施術に関する基礎知識・技術について学ぶ。 対人で基礎・応用的な施術を行う。 人の診方、触り方、反応の取り方を学び、治療や臨床に結び付くようにする。				

授業内容

日程	内 容	使用機材等
1	オリエンテーション・リスク管理・感染症対策	
2	鍼・灸の基礎操作 自分・対人への施術	
3	鍼・灸の基礎操作 自分・対人への施術	
4	鍼・灸の基礎操作 自分・対人への施術	
5	鍼・灸の基礎操作 自分・対人への施術	
6	鍼・灸の基礎操作 対人への施術	
7	鍼・灸の基礎操作 対人への施術	
8	鍼・灸の基礎操作 対人への施術	
9	鍼・灸の基礎操作 対人への施術	
10	鍼・灸の基礎操作 対人への施術	
11	鍼・灸の基礎操作 対人への施術	
12	鍼・灸の基礎操作 対人への施術	
13	定期試験	
14	定期試験	
15	振り返り	

<2024年度>

授業要項

科目	はりきゅう実習 4	学科名	はりきゅう	履修年次	2年次
		教授法	実習	単位数コマ	2単位(30コマ)
教員	児玉 農	領域	専門	実務経験	鍼灸院
教科書	鍼通電療法テクニック 改定 第3版 医道の日本社				
参考書	鍼灸臨床における医療面接 医道の日本社				
成績評価	期末試験・提出物などを加味して評価する。				
評価基準					
到達目標	低周波鍼通電療法の技術習得は勿論のこと、現代医学的な鑑別診断が出来るようになる。				
留意点	刺鍼部位によってはハーフパンツの用意などの指示がある。				
授業外に必要な学習内容	解剖学 I で学んだ運動器系に関する指標となる部位の名称や筋肉の走行などをわかり、立体的にイメージできる。				
授業内容	鍼灸師として鍼灸院での勤務経験を踏まえ、次のことを教授する。 現代医学的見地からの疾病観や治効理論から鑑別診断と治療を行うことが出来る。当然それに付随する理学検査や医療面接等の技術習得も、その臨床的意義も踏まえて習得する。				

授業内容

日程	内 容	使用機材等
1	授業ガイダンス	
2	下腿への低周波鍼通電療法①	
3	下腿への低周波鍼通電療法②	
4	下腿への低周波鍼通電療法③	
5	下腿への低周波鍼通電療法④	
6	大腿・臀部への低周波鍼通電療法①	
7	大腿・臀部への低周波鍼通電療法②	
8	大腿・臀部への低周波鍼通電療法③	
9	大腿・臀部への低周波鍼通電療法④	
10	大腿・臀部への低周波鍼通電療法⑤	
11	上肢への低周波鍼通電療法①	
12	上肢への低周波鍼通電療法②	
13	上肢への低周波鍼通電療法③	
14	上肢への低周波鍼通電療法④	
15	上肢への低周波鍼通電療法⑤	

授業内容

日 程	内 容	使用機材等
16	前期期末試験 1	
17	医療面接の基礎 医療面接実技	
18	頸・肩関節周囲への低周波鍼通電療法①	
19	頸・肩関節周囲への低周波鍼通電療法②	
20	頸・肩関節周囲への低周波鍼通電療法③	
21	頸・肩関節周囲への低周波鍼通電療法④	
22	腰臀部疾患への治療法 1	
23	腰臀部疾患への治療法 2	
24	腰臀部疾患への治療法 3	
25	腰臀部疾患への治療法 4	
26	肘関節・手関節の治療法 1	
27	肘関節・手関節の治療法 2	
28	試験概要説明 試験準備	
29	後期期末試験 1	
30	後期期末試験 2	

<2024年度>

授業要項

科目	はり・きゅう実習5	学科名	はりきゅう	履修年次	2年次
		教授法	実習	単位数コマ	2単位(30コマ)
教員	角澤 隆	領域	専門	実務経験	鍼灸院
教科書	『はりきゅう実技基礎編』・『経絡経穴概論』・『東洋医学概論』 教科書執筆小委員会 著 医道の日本社				
参考書	特になし				
成績評価	各試験・出席・提出物などを総合して判断する。				
評価基準	学則に準じて評価。				
到達目標	東洋医学的診断法及び弁証技法を駆使して各病症を理解し処方ができる。				
留意点	学習者の興味を喚起し、学習意欲の向上に努める。				
授業外に必要な学習内容	前日までに前回の内容を復習をして、実技練習を積み重ねること。				
授業内容	鍼灸師として鍼灸院での勤務経験を踏まえ、次の内容を教授する。 ・東洋医学的診断と補瀉技術について学ぶ。 ・各病症に対するアプローチ方法について学ぶ。				

授業内容

日 程	内 容	使用機材等
1	オリエンテーション	書画カメラ
2	補瀉手技①	〃
3	補瀉手技②	〃
4	補瀉手技③	〃
5	補瀉手技④	〃
6	補瀉手技⑤	〃
7	補瀉手技⑥	〃
8	補瀉手技⑦	〃
9	補瀉手技⑧	〃
10	補瀉手技⑨	〃
11	補瀉手技⑩	〃
12	症例に基づいた治療法	〃
13	症例に基づいた治療法	〃
14	テスト対策練習	〃
15	前期末テスト	〃

授業内容

日 程	内 容	使用機材等
16	前期末テスト	〃
17	前期末テスト	〃
18	頭皮鍼	〃
19	頭皮鍼	〃
20	頭皮鍼	〃
21	頭皮鍼	〃
22	症例に基づいた治療法	〃
23	症例に基づいた治療法	〃
24	症例に基づいた治療法	〃
25	症例に基づいた治療法	〃
26	症例に基づいた治療法	〃
27	テスト対策練習	〃
28	後期末テスト	〃
29	後期末テスト	〃
30	後期末テスト	〃

<2024年度>

授業要項

科目	はり・きゅう実習6	学科名	はりきゅう	履修年次	2年次
		教授法	実習	単位数コマ	1単位(15コマ)
教員	林 陽子	領域	専門	実務経験	鍼灸院
教科書	『はりきゅう実技 基礎編』東洋療法学校協会編 医道の日本社				
参考書	『東洋医学概論』東洋療法学校協会編				
成績評価	科目評価試験、出席等で判断する				
評価基準	学則規定に基づく				
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・臨床家としての基礎的な知識を身につける ・治療家としての感覚を養う 				
留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・出席 ・清潔 ・柔和な触診 				
授業外に必要な学習内容	実習後は反復練習し、身体の構造や機能の個体差に適応できるよう努めること				
授業内容	鍼灸師として鍼灸院での勤務経験を踏まえ、鍼灸師としての診察法の基本を教授する				

授業内容

日 程	内 容	使用機材等
1	鍼灸施術に際しての診察法	
2	腹診、背候診、脈診、舌診の基礎	
3	腹診 1	
4	腹診 2	
5	背候診 1	
6	背候診 2	
7	舌診 1	
8	舌診 2	
9	脈診 1	
10	脈診 2	
11	患者さんの誘導から診察までを通してみよう	
12	実技試験 1	
13	実技試験 2	
14	記述試験	
15	解答解説	

<2024年度>

授業要項

科目	臨床実習 2	学科名	はりきゅう	履修年次	2年次
		教授法	実習	単位数コマ	1単位(23コマ)
教員	西岡岳之	領域	専門	実務経験	鍼灸院
教科書	1.「臨床医学総論」東洋療法学校協会編 医歯薬出版(株) 2.「臨床医学各論」東洋療法学校協会編 医歯薬出版(株)				
参考書	1. 開業鍼灸師のための診察法と治療法1～5; 出端昭男著(医道の日本社) 2. 教材・資料プリント配布				
成績評価	出席、授業態度などを総合評価とし、学校の定める試験評価に準ずる。				
評価基準	同上				
到達目標	各疾患の病態生理を理解し、安全な施術方針が立案できる。 病態に基づいた取穴を列挙できる。安全な施術(鍼・灸)が実践できる。				
留意点	衛生的で安全な鍼灸施術を身につけるために、問診と身体診察による病態把握に基づいた具体的な治療方法の基礎を修得する。				
授業外に必要な学習内容	整形外科的運動器疾患を施術する上で、体表解剖、経絡経穴概論の腧穴の予習・復習				
授業内容	鍼灸師として鍼灸院での勤務経験を踏まえ、次のことを教授する。 腰痛、腰下肢痛・頸上肢痛、膝関節痛、膝関節痛及びこれらを引き起こす運動器疾患(スポーツ障害を含む)は、はき臨床において最も高頻度に扱われる病態です。それらに対する安全な鍼灸施術を学習します。				

授業内容

日程	内 容		使用機材等
1	授業ガイダンス	刺鍼・施灸の基本確認と衛生的で安全な施術ができる。 バイタルサイン(脈拍・血圧)を検査・評価できる。	鍼灸実技道具・血圧計
2	腰痛・腰下肢痛のアプローチ①	バイタルサイン(脈拍・血圧)を検査・評価できる。 鍼灸適応となる腰痛に対する治療穴の選定ができる。 治療穴を含めた腰痛の触診を的確に行うことができる。 腰痛に対して衛生的で安全な施術を行うことができる。	鍼灸実技道具・血圧計
3	腰痛・腰下肢痛のアプローチ②		鍼灸実技道具・血圧計
4	腰痛・腰下肢痛のアプローチ③		鍼灸実技道具・血圧計
5	腰痛・腰下肢痛のアプローチ④		鍼灸実技道具・血圧計
6	頸上肢痛のアプローチ①		バイタルサイン(脈拍・血圧)を検査・評価できる。 鍼灸適応となる頸上肢痛に対する治療穴の選定ができる。 治療穴を含めた頸上肢痛の触診を的確に行うことができる。 頸上肢痛に対して衛生的で安全な施術を行うことができる。
7	頸上肢痛のアプローチ②	鍼灸実技道具・血圧計	
8	頸上肢痛のアプローチ③	鍼灸実技道具・血圧計	
9	頸上肢痛のアプローチ④	鍼灸実技道具・血圧計	
10	まとめ		鍼灸実技道具・血圧計
11	実技期末試験①		鍼灸実技道具・血圧計
12	実技期末試験フィードバック		鍼灸実技道具・血圧計

授業内容

日 程	内 容	使用機材等
13	膝関節痛のアプローチ①	バイタルサイン(脈拍・血圧)を検査・評価できる。 鍼灸適応となる膝関節痛に対する治療穴の選定ができる。 治療穴を含めた膝関節痛の触診を的確に行うことができる。 膝関節痛に対して衛生的で安全な施術を行うことができる。
14	膝関節痛のアプローチ②	
15	膝関節痛のアプローチ③	
16	膝関節痛のアプローチ④	
17	肩関節痛のアプローチ①	バイタルサイン(脈拍・血圧)を検査・評価できる。 鍼灸適応となる肩関節痛に対する治療穴の選定ができる。 治療穴を含めた肩関節痛の触診を的確に行うことができる。 肩関節痛に対して衛生的で安全な施術を行うことができる。
18	肩関節痛のアプローチ②	
19	肩関節痛のアプローチ③	
20	肩関節痛のアプローチ④	
21	まとめ	鍼灸実技道具・血圧計
22	実技期末試験②	鍼灸実技道具・血圧計
23	実技期末試験フィードバック	鍼灸実技道具・血圧計

<2024年度>

授業要項

科目	総合学習 2	学科名	はりきゅう	履修年次	2 年次
		教授法	講義	単位数コマ	3 単位 (38 コマ)
教員	はりきゅう学科専任教員	領域	専門	実務経験	鍼灸院
教科書	総合学習1の教科書に加え、病理学概論、臨床医学総論、臨床医学各論など				
参考書	鍼灸医療安全ガイドライン、鍼灸学基礎編、機能解剖的触診技術、鍼通電療法テクニックなど				
成績評価	出席、試験、提出物などを総合して評価する。				
評価基準	出席、試験、提出物など総合し、学校の定める成績評価に準ずる。				
到達目標	西洋医学と東洋医学における人体の機能・構造を理解し、鍼灸治療における臨床的な技術を習得する。				
留意点	授業内容によって教室や実技室などを使用する。進捗状況によって内容の変更することもある。				
授業外に必要な学習内容	コミュニケーション能力を高めよう。				
授業内容	鍼灸師として鍼灸院での勤務経験を踏まえ、今まで学習した内容を含め、総合的に学習する。				

授業内容

日 程	内 容	使用機材等
1	総合学力判定試験	
2	総合学力判定試験	
3	チームワーク研修など	
4	チームワーク研修など	
5	チームワーク研修など	
6	チームワーク研修など	
7	総合学力判定試験	
8	総合学力判定試験	
9	総合学力判定試験	
10	総合学力判定試験	
11	チームワーク研修など	
12	チームワーク研修など	
13	チームワーク研修など	
14	チームワーク研修など	
15	チームワーク研修など	

授業内容

日 程	内 容	使用機材等
16	チームワーク研修など	
17	チームワーク研修など	
18	チームワーク研修など	
19	卒業見込み判定実技試験の模擬患者など	
20	卒業見込み判定実技試験の模擬患者など	
21	卒業見込み判定実技試験の模擬患者など	
22	卒業見込み判定実技試験の模擬患者など	
23	卒業見込み判定実技試験の模擬患者など	
24	卒業見込み判定実技試験の模擬患者など	
25	総合学習 1 の内容に加え、病理学、臨床医学総論、臨床医学各論など	
26	総合学習 1 の内容に加え、病理学、臨床医学総論、臨床医学各論など	
27	総合学力判定試験	
28	総合学力判定試験	
29	総合学力判定試験	
30	総合学力判定試験	
31	総合学習 1 の内容に加え、病理学、臨床医学総論、臨床医学各論など	
32	総合学習 1 の内容に加え、病理学、臨床医学総論、臨床医学各論など	
33	総合学習 1 の内容に加え、病理学、臨床医学総論、臨床医学各論など	
34	総合学習 1 の内容に加え、病理学、臨床医学総論、臨床医学各論など	
35	総合学習 1 の内容に加え、病理学、臨床医学総論、臨床医学各論など	
36	総合学習 1 の内容に加え、病理学、臨床医学総論、臨床医学各論など	
37	総合学習 1 の内容に加え、病理学、臨床医学総論、臨床医学各論など	
38	総合学習 1 の内容に加え、病理学、臨床医学総論、臨床医学各論など	

<2024年度>

授業要項

科目	衛生学・公衆衛生学	学科名	はりきゅう	履修年次	3年次
		教授法	講義	単位数コマ	2単位(25コマ)
教員	林 陽子	領域	専門基礎	実務経験	鍼灸院
教科書	「衛生学・公衆衛生学」東洋療法学校協会編				
参考書	「公衆衛生学がみえる」メディックメディア 「イラスト公衆衛生学」東京教学社など				
成績評価	科目評価試験、授業態度(出席状況含む)、授業中の確認試験(小テスト等)、提出物などの総合評価とし、学校の定める試験評価に準ずる。				
評価基準	同上				
到達目標	はりきゅう師に必要な環境や、医療人としての必要な知識を習得する。				
留意点	全出席を心がけること。授業の進捗状態で内容に変更があります。				
授業外に必要な学習内容	主に学習したことを復習し、4択問題などをおこなう。				
授業内容	鍼灸師として鍼灸院での勤務経験を踏まえ、次のことを教授する。 鍼灸師として健康に関わる衣食住を広く知り、歴史を踏まえて近年の公衆衛生の動向などの理解に努める。 国家試験の出題分野が多い内容に重点をおこなう。				

授業内容

日 程	内 容	使用機材等
1	第1章 衛生学・公衆衛生学の意義 第2章 健康 1. 健康の概要①	プリント
2	第2章 健康 1. 健康の概要② 2. 健康管理①	
3	第2章 健康 2. 健康管理②	
4	第12章 保健統計 1. 保健統計の意義 2. 主な保健統計とその意義 3. 主要な保健統計指標①	
5	第12章 保健統計 3. 主要な保健統計指標② 第11章 疫学 1. 疫学の概念と意義 2. 疫学の頻度の測定	
6	第11章 疫学 3. 疫学調査研究の段階と実例 第9章 感染症とその対策 1. 感染症の意義と種類	
7	第9章 感染症とその対策 2. 発生要因 3. 感染予防の原則 4. 免疫	
8	中間テスト(1回目/2回) 第10章 消毒法 1. 消毒法一般 2. 消毒の種類①	
9	第10章 消毒法 2. 消毒の種類②	
10	第8章 成人・高齢者保健 1. 成人・高齢者保健の意義～	

授業内容

日 程	内 容	使用機材等
11	第8章 4. 高齢者の保健福祉対策～ 第7章 母子保健 1. 母子保健の意義～	
12	第7章 4. 母体保護と家族計画 第3章 1. 食品と栄養 1) 食品の意義と食生活	
13	1. 食品と栄養 2) 保健機能食品	
14	1. 食品と栄養 5) 食中毒～ 2. 運動と健康	
15	第5章 産業保健	
16	中間テスト (2回目/2回) 第6章 1. 精神保健の意義 2. 精神の健康	
17	3. 精神障害の現状と分類	
18	第4章 1. 環境とは 2. 日常生活環境① 1) 物理学的環境要因	
19	2. 日常生活環境 ② 2) 化学的環境要因①	
20	2. 日常生活環境 ③ 2) 化学的環境要因②	
21	3. 環境問題① 1) 公害	
22	3. 環境問題② 2) 地球規模の環境問題	
23	まとめ・重点生理	
24	期末試験	
25	解答解説	

<2024年度>

授業要項

科 目	リハビリテーション医学	学科名	はりきゆう	履修年次	3年次
		教授法	講義	単位数コマ	2単位(25コマ)
教 員	西岡岳之	領域	専門基礎	実務経験	鍼灸院
教科書	1. 『リハビリテーション医学』学校協会編				
参考書	1. 教材・資料プリント配布 2. 『標準リハビリテーション医学』医学書院 3. 『理学療法ハンドブック』協同医書出版社 4. 『障害と活動の測定・評価ハンドブック』南江堂				
成績評価	シラバスで明示した到達目標を達成しているかを期末試験にて評価する。				
評価基準	同上				
到達目標	障害を理解し、リハビリテーションの各時期に応じた対応を学ぶと共に、はき施術・介護分野・リハビリテーションにおける臨床・福祉の現場で活用できる、障害評価手法を学ぶ。また、疾患別の障害の定義、分類について習得する。				
留意点	リハビリテーション医学は「人間たるにふさわしい状態になる」という意味です。中世では「名誉の回復」という法律用語として使用されてきました。従って、本学問は「人間たるにふさわしい状態になる」ために行うアプローチ(対応)の体系です。疾病や障害によって、出来ないことができるようになるといった単なる機能の回復という狭い意味ではなく、権利・資格・名誉の回復など人間らしく生きる権利の回復を目指すものです。本科目を通じて、疾病や障害をもちながらもそこで生活する「その人」とどう関わり、その関わりから何を学ぶかをという基本姿勢を軸に学習してください。				
授業外に必要な学習内容	臨床医学総論・臨床医学各論・解剖学(筋骨格系)の勉強を必要とする。				
授業内容	鍼灸師として鍼灸院での勤務経験を踏まえ、次の内容を教授する。 リハビリテーションは運動機能、日常生活活動の能力の障害を回復させ、社会・環境への適応を促進するために必要な第4の医学と呼ばれる。本講義では、リハビリテーション医学を理解し、障害と障害者への対応の概念を疾患別に学習します。				

授業内容

日 程	内 容	使用機材等
1	リハビリテーションと障害 リハビリテーションの概念、ICF、障害の種類	
2	リハビリテーション医学と医療 リハビリテーションチーム、社会的専門職、高齢社会	
3	心身機能・身体構造の評価 四肢長、周径、関節可動域、徒手筋力テスト	
4	活動の評価① ADL、廃用症候群、サルコペニア	
5	活動の評価② 痙性麻痺、共同運動、摂食嚥下障害、失語症	
6	活動の評価③ 重心と重心線、正常歩行	
7	活動の評価④ 異常歩行	
8	医学的リハビリテーション① 理学療法・運動療法・物理療法	
9	医学的リハビリテーション② 作業療法・装具療法・車椅子・補装具療法	
10	各疾患のリハビリテーション① 末梢神経のリハビリテーション	

授業内容

日 程	内 容	使用機材等
11	各疾患のリハビリテーション② 関節リウマチのリハビリテーション	
12	まとめ	
13	定期試験	
14	期末試験フィードバック	
15	各疾患のリハビリテーション③ 骨関節疾患のリハビリテーション	
16	各疾患のリハビリテーション④ 骨関節疾患のリハビリテーション	
17	各疾患のリハビリテーション⑤ 脳卒中のリハビリテーション	
18	各疾患のリハビリテーション⑥ 脳卒中のリハビリテーション	
19	各疾患のリハビリテーション⑦ 脊髄損傷のリハビリテーション	
20	各疾患のリハビリテーション⑧ 脊髄損傷のリハビリテーション	
21	各疾患のリハビリテーション⑨ 切断のリハビリテーション	
22	各疾患のリハビリテーション⑩ 小児（脳性麻痺）のリハビリテーション	
23	まとめ	
24	定期試験	
25	期末試験フィードバック	

<2024年度>

授業要項

科目	運動学	学科名	はりきゆう	履修年次	3年次
		教授法	講義	単位数コマ	1単位(13コマ)
教員	西岡岳之	領域	専門基礎	実務経験	鍼灸院
教科書	1.『リハビリテーション医学』学校協会編				
参考書	1. 教材・資料プリント配布 2.『標準リハビリテーション医学』医学書院				
成績評価	シラバスで明示した到達目標を達成しているかを期末試験にて評価する。				
評価基準	同上				
到達目標	人が罹患する疾病を理解するために、医療従事者の共通用語である人体の各器官の構造の持つ運動の働きを理解し、臨床現場に応用出来る基礎を身に着ける。				
留意点	3年時終盤に差し掛かる時期ゆえに、運動学とリハビリテーション医学を総括し、理解を深め、国家試験レベルの問題に正しく解答できる力を身につける講義と演習問題を中心とする。				
授業外に必要な学習内容	解剖学と運動器疾患の復習				
授業内容	鍼灸師として鍼灸院での勤務経験を踏まえ、次の内容を教授する。 生体の構造における運動を学び、正常な構造の破綻又は運動に異常を来した疾病を理解するための基盤として重要である。従って、人体の正常な構造に基づく運動の働きを学ぶことで、臨床現場での対応の基礎を修得する。				

授業内容

日 程	内 容	使用機材等
1	各疾患のリハビリテーション① パーキンソン病のリハビリテーション	
2	各疾患のリハビリテーション② 呼吸器・心疾患のリハビリテーション	
3	運動学の仕組み① 脊柱・体幹の機能	
4	運動学の仕組み② 肩甲帯・肩の機能	
5	運動学の仕組み③ 肘と前腕の機能	
6	運動学の仕組み④ 手と手指の機能	
7	運動学の仕組み⑤ 骨盤と股関節の機能	
8	運動学の仕組み⑥ 膝関節の機能	
9	運動学の仕組み⑦ 足の機能	
10	運動学の仕組み⑧ 顔面及び頭部の筋	
11	まとめ	
12	定期試験	
13	定期試験のフィードバック	

<2024年度>

授業要項

科目	臨床医学各論 2	学科名	はりきゅう	履修年次	3 年次
		教授法	講義	単位数コマ	2 単位 (25 コマ)
教員	藤井 栄二	領域	専門基礎	実務経験	鍼灸院
教科書	奈良 信雄 他著:臨床医学各論 第2版 医歯薬出版株式会社				
参考書					
成績評価	定期試験により行う。				
評価基準	S(90点以上)、A(80点以上)、B(70点以上)、C(60点以上)、D(60点以下)で表わし、C以上を合格とする。				
到達目標	授業内容を理解し、臨床現場で活かすことができる。				
留意点	『疑いを人に問うは知を求むる道なり。自ら心に道理を思ふは知を開く本なり。』				
授業外に必要な学習内容	普段から文章を読み書きし、国語力を鍛えること。				
授業内容	鍼灸師として鍼灸院での勤務経験を踏まえ、主に教科書を使用し、理解しておくべき内容を説明する。				

授業内容

日 程	内 容	使用機材等
1	第9章 循環器疾患 A. 心臓疾患～	教科書・資料プリント
2	第9章 循環器疾患 A. 心臓疾患～	教科書・資料プリント
3	第9章 循環器疾患 A. 心臓疾患～	教科書・資料プリント
4	第9章 循環器疾患 B. 冠動脈疾患～	教科書・資料プリント
5	第9章 循環器疾患 C. 動脈疾患～	教科書・資料プリント
6	第10章 血液・造血器疾患 A. 赤血球疾患～	教科書・資料プリント
7	第10章 血液・造血器疾患 B. 白血球疾患～	教科書・資料プリント
8	第10章 血液・造血器疾患 D. 出血性素因～	教科書・資料プリント
9	第11章 神経疾患 A. 脳血管疾患～	教科書・資料プリント
10	第11章 神経疾患 B. 感染性疾患～	教科書・資料プリント
11	第11章 神経疾患 C. 脳・脊髄腫瘍～	教科書・資料プリント
12	第11章 神経疾患 D. 基底核変性疾患～	教科書・資料プリント
13	第11章 神経疾患 F. 認知症～	教科書・資料プリント

授業内容

日 程	内 容	使用機材等
14	第 1 1 章 神経疾患 H. 運動ニューロン障害～	教科書・資料プリント
15	第 1 1 章 神経疾患 J. 神経痛～	教科書・資料プリント
16	第 1 2 章 リウマチ性疾患・膠原病 A. 関節リウマチ～	教科書・資料プリント
17	第 1 2 章 リウマチ性疾患・膠原病 B. 膠原病～	教科書・資料プリント
18	第 1 3 章 その他の領域 B. 一般外科～	教科書・資料プリント
19	第 1 3 章 その他の領域 D. 婦人科疾患～	教科書・資料プリント
20	第 1 3 章 その他の領域 G. 耳鼻科疾患～	教科書・資料プリント
21	第 1 3 章 その他の領域 I. 心療内科～	教科書・資料プリント
22	第 1 3 章 その他の領域 J. 加齢に伴う病態～	教科書・資料プリント
23	総合学習	教科書・資料プリント
24	期末試験	学生証・筆記用具
25	試験解説(追・再試験)	期末試験問題用紙

<2024年度>

授業要項

科目	医療概論	学科名	はりきゅう	履修年次	3年次
		教授法	講義	単位数コマ	1単位(13コマ)
教員	古川 清裕	領域	専門基礎	実務経験	鍼灸院
教科書	『医療概論』東洋療法学校協会				
参考書	配布資料など				
成績評価	期末試験、授業態度などを総合評価とし、学校の定める試験評価に準ずる。				
評価基準	同上				
到達目標	はりきゅう師に必要な環境や、医療人としての必要な知識を習得する。				
留意点	全出席を心がけること。				
授業外に必要な学習内容	特になし。				
授業内容	鍼灸師として鍼灸院での勤務経験を踏まえ、医療人として医療の歴史や近年の社会保障についての知識を展開する。				

授業内容

日程	内 容	使用機材等
1	オリエンテーション 医学史の序説	
2	医学史の意義と特質	
3	西洋の医学と医療の歴史	
4	西洋の医学と医療の歴史	
5	東洋の医学と医療の歴史	
6	東洋の医学と医療の歴史	
7	日本の医学と医療の歴史	
8	日本の医学と医療の歴史	
9	現代医学の課題	
10	現代の医療制度	
11	現代の医療制度	
12	医療倫理・施術者としての倫理	
13	定期試験	

<2024年度>

授業要項

科目	東洋医学臨床論（現代）	学科名	はりきゅう	履修年次	3年次
		教授法	講義	単位数コマ	3単位（38コマ）
教員	小林 春代	領域	専門	実務経験	鍼灸院
教科書	新版 東洋医学臨床論(はりきゅう編) 東洋療法学校協会編 株式会社南江堂				
参考書	臨床医学各論 第2版 東洋療法学校協会編 医歯薬出版株式会社				
成績評価	小テスト、期末試験、出席等から総合評価し、学校の定める試験評価に準ずる				
評価基準	学則規定に基づく				
到達目標	西洋医学における各疾患の基礎や治療法について理解し、鍼灸臨床にいきる知識を身につける				
留意点	情報量が多いため、こまめに情報の整理を行いながら繰り返し復習し、知識の定着を図ること				
授業外に必要な学習内容	解剖学、生理学、病理学、経絡経穴概論などの知識が必要となるため、事前に復習を行うこと 臨床医学各論の項目と合わせて予習・復習をする				
授業内容	鍼灸師として鍼灸院での勤務経験を踏まえ、鍼灸臨床でみられる代表的な疾患の病態・症状・治療法について西洋医学的な考え方を教授する				

授業内容

日程	内容	使用機材等
1	第1章 総論 第1節 鍼灸臨床	
2	第1章 総論 第1節 鍼灸臨床	
3	第2章 各論 第1節 疼痛（概論）	
4	第2章 各論 第1節 疼痛（頭痛）	
5	第2章 各論 第1節 疼痛（頭痛・顔面痛）	
6	第2章 各論 第1節 疼痛（関節痛・頸肩腕痛）	
7	第2章 各論 第1節 疼痛（上肢痛・肩関節痛）	
8	第2章 各論 第1節 疼痛（腰下肢痛）	
9	第2章 各論 第1節 疼痛（膝痛）	
10	第2章 各論 第1節 疼痛（胸部）	
11	第2章 各論 第1節 疼痛（腹部）	
12	第2章 各論 第2節 臓腑と関連する症候（肝系）	
13	第2章 各論 第2節 臓腑と関連する症候（肝系）	
14	第2章 各論 第2節 臓腑と関連する症候（心系）	
15	第2章 各論 第2節 臓腑と関連する症候（心系）	

授業内容

日 程	内 容	使用機材等
16	前期期末試験	
17	試験解説	
18	第2章 各論 第2節 臓腑と関連する症候（脾系）	
19	第2章 各論 第2節 臓腑と関連する症候（脾系）	
20	第2章 各論 第2節 臓腑と関連する症候（脾系）	
21	第2章 各論 第2節 臓腑と関連する症候（肺系）	
22	第2章 各論 第2節 臓腑と関連する症候（肺系）	
23	第2章 各論 第2節 臓腑と関連する症候（腎系）	
24	第2章 各論 第2節 臓腑と関連する症候（腎系）	
25	第2章 各論 第2節 臓腑と関連する症候（腎系）	
26	第2章 各論 第3節 全身の症候	
27	第2章 各論 第3節 全身の症候	
28	第2章 各論 第3節 全身の症候	
29	第2章 各論 第4節 その他の症候	
30	第2章 各論 第4節 その他の症候	
31	第2章 各論 第5節 女性特有の症候	
32	第2章 各論 第5節 女性特有の症候	
33	第2章 各論 第5節 女性特有の症候	
34	第2章 各論 第6節 小児特有の症候	
35	第2章 各論 第7節 老年特有の症候	
36	まとめ	
37	後期期末試験	
38	試験解説	

<2024年度>

授業要項

科目	東洋医学臨床論(東洋)	学科名	はりきゅう	履修年次	3年次
		教授法	講義	単位数コマ	3単位(38コマ)
教員	藤井 栄二	領域	専門	実務経験	鍼灸院
教科書	新版 東洋医学臨床論(はりきゅう編) 株式会社南江堂				
参考書					
成績評価	定期試験により行う。				
評価基準	S(90点以上)、A(80点以上)、B(70点以上)、C(60点以上)、D(60点以下)で表わし、C以上を合格とする。				
到達目標	授業内容を理解し、臨床現場で活かすことができる。				
留意点	『疑いを人に問うは知を求むる道なり。自ら心に道理を思うは知を開く本なり。』				
授業外に必要な学習内容	普段から文章を読み書きし、国語力を鍛えること。				
授業内容	鍼灸師として鍼灸院での勤務経験を踏まえ、主に教科書を使用し、理解しておくべき内容を説明する。				

授業内容

日程	内 容	使用機材等
1	第1章 総論 第1節 鍼灸臨床	教科書・資料プリント
2	第1章 総論 第1節 鍼灸臨床	教科書・資料プリント
3	第1章 総論 第1節 鍼灸臨床	教科書・資料プリント
4	第2章 各論 第1節 疼痛	教科書・資料プリント
5	第2章 各論 第1節 疼痛	教科書・資料プリント
6	第2章 各論 第1節 疼痛	教科書・資料プリント
7	第2章 各論 第1節 疼痛	教科書・資料プリント
8	第2章 各論 第1節 疼痛	教科書・資料プリント
9	第2章 各論 第1節 疼痛	教科書・資料プリント
10	第2章 各論 第1節 疼痛	教科書・資料プリント
11	第2章 各論 第1節 疼痛	教科書・資料プリント
12	第2章 各論 第1節 疼痛	教科書・資料プリント
13	第2章 各論 第2節 臓腑と関連する症候	教科書・資料プリント
14	第2章 各論 第2節 臓腑と関連する症候	教科書・資料プリント
15	総合学習	学判試問題用紙

授業内容

日 程	内 容	使用機材等
16	第2章 各論 第2節 臓腑と関連する症候	教科書・資料プリント
17	総合学習	教科書・資料プリント
18	期末試験	学生証・筆記用具
19	試験解説	期末試験問題用紙
20	追・再試験	学生証・筆記用具
21	第2章 各論 第2節 臓腑と関連する症候	教科書・資料プリント
22	第2章 各論 第2節 臓腑と関連する症候	教科書・資料プリント
23	第2章 各論 第2節 臓腑と関連する症候	教科書・資料プリント
24	第2章 各論 第2節 臓腑と関連する症候	教科書・資料プリント
25	第2章 各論 第3節 全身の症候	教科書・資料プリント
26	第2章 各論 第3節 全身の症候	教科書・資料プリント
27	第2章 各論 第3節 全身の症候	教科書・資料プリント
28	第2章 各論 第4節 その他の症候	教科書・資料プリント
29	第2章 各論 第4節 その他の症候	教科書・資料プリント
30	第2章 各論 第5節 女性特有の症候	教科書・資料プリント
31	第2章 各論 第5節 女性特有の症候	教科書・資料プリント
32	第2章 各論 第5節 女性特有の症候	教科書・資料プリント
33	第2章 各論 第5節 女性特有の症候	教科書・資料プリント
34	第2章 各論 第5節 女性特有の症候	教科書・資料プリント
35	第2章 各論 第6節 小児特有の症候	教科書・資料プリント
36	第2章 各論 第6節 小児特有の症候	教科書・資料プリント
37	期末試験	学生証・筆記用具
38	試験解説(追・再試験)	期末試験問題用紙

<2024年度>

授業要項

科目	鍼灸治効理論	学科名	はりきゅう	履修年次	3年次
		教授法	講義	単位数コマ	1単位(13コマ)
教員	林 陽子	領域	専門	実務経験	鍼灸院
教科書	『はりきゅう理論第3版』 東洋療法学校協会編 医道の日本社				
参考書	『生理学 第3版』 東洋療法学校協会編 医歯薬出版				
成績評価	科目評価試験、出席等で判断する				
評価基準	学則規定に基づく				
到達目標	鍼灸刺激に対して生体がどのように反応するかを理解する				
留意点	診療に活かせるよう、生体反応の相互関係の理解に努める				
授業外に必要な学習内容	復習し、知識の定着に努める				
授業内容	鍼灸師として鍼灸院での勤務経験を踏まえ、鍼灸刺激と神経、免疫、ホメオスタシスなどの反応を総合的に教授する				

授業内容

日 程	内 容	使用機材等
1	p. p. 47-54 第8章 鍼灸治効を理解するために必要な基礎知識 1. はじめに 2. 生体の調節 1) 運動系の調節	
2	p. p. 54-63 2) 内臓系の調節	
3	p. p. 63-69 3. 感覚 1) 体性感覚 (1) はじめに (2) 総論	
4	p. p. 69-76 (3) 痛覚	
5	p. p. 76-86 (4) 温度覚 (5) 触角・圧覚・振動覚 (6) 固有感覚 (深部感覚) 2) 内臓感覚 4. 熱傷 1) 熱傷の病理	
6	p. p. 86-96 2) 熱傷と分類 3) 熱傷と灸 5. 体表の反応 1) はじめに 2) 体表の反応 3) トリガーポイント 第9章 鍼灸治効機序 1. はじめに 2. 鍼鎮痛 1) 鍼鎮痛の概要	

授業内容

日 程	内 容	使用機材等
7	<p>p. p. 97-104</p> <ul style="list-style-type: none"> 2) 内因性痛覚抑制系 —全身性鎮痛— 3) 内因性痛覚抑制系 —脊髄分節性鎮痛— 4) 末梢性鎮痛 5) 鍼鎮痛の個人差 	
8	<p>p. p. 104-115</p> <ul style="list-style-type: none"> 3. 循環系と鍼灸 <ul style="list-style-type: none"> 1) 皮膚循環と鍼灸 2) 筋循環と鍼 3) 心拍数および血圧と鍼 4. 運動系と鍼 <ul style="list-style-type: none"> 1) 侵害刺激により誘発される運動反射の抑制 2) 振動刺激により誘発される運動反射の抑制 3) 自原抑制と拮抗抑制を介した筋緊張の抑制 5. 消化器系と鍼 <ul style="list-style-type: none"> 1) ヒト消化管機能障害に対する鍼治療 2) 消化管機能と鍼 	
9	<p>p. p. 115-128</p> <ul style="list-style-type: none"> 6. 泌尿器系と鍼 <ul style="list-style-type: none"> 1) ヒト下部尿路機能障害に対する鍼治療 2) 下部尿路機能と鍼 7. リラクゼーションと鍼灸 <ul style="list-style-type: none"> 1) 鍼灸のリラクゼーション効果 2) 脳波からみた鍼灸のリラクゼーション効果 3) 脳報酬系に対する鍼灸の作用 8. 生体防御系と鍼灸 <ul style="list-style-type: none"> 1) 神経系による免疫系の調節 2) 内分泌系による免疫系の調節 3) 鍼灸刺激による自然免疫の調節 4) 鍼灸刺激による獲得免疫の調節 	
10	<p>p. p. 129-137</p> <p>第10章 鍼灸治効機序と臨床の接点</p> <ul style="list-style-type: none"> 1. 刺激部位 <ul style="list-style-type: none"> 1) 刺激部位と腧穴の解釈 2) 受容器・効果器としてのポリモーダル受容器 2. 刺激入力 <ul style="list-style-type: none"> 1) 受容器および神経線維 2) 刺入深度 3. 鍼灸刺激による治効機序 <ul style="list-style-type: none"> 1) 局所治療 2) 遠隔治療 3) まとめ 	
11	<p>自習：練習問題、復習</p>	
12	<p>定期試験</p>	
13	<p>試験解答とまとめ</p>	

<2024年度>

授業要項

科 目	診察法（東洋医学的）	学科名	はりきゅう学科	履修年次	3 年次
		教授法	実技	単位数コマ	2 単位（30 コマ）
教 員	小林郁代	領域	専門	実務経験	鍼灸院
教科書					
参考書	『積聚治療』・『続・積聚治療』 小林詔司著 医道の日本社 / 『治療家の手の作り方』 形井秀一著 六然社				
成績評価	出欠席、小テスト、実技試験、提出物等				
評価基準	欠席しないこと				
到達目標	東洋医学の観点に立った診断方法・治療方法を身につける				
留意点					
授業外に必要な学習内容	実技練習				
授業内容	鍼灸師としての鍼灸院での勤務経験を踏まえ、はき実技・臨床実習と連関し、四診法を教授する。腹診を中心とした治療方法とその概念を習得する				

授業内容

日 程	内 容	使用機材等
1	東洋医学の身体診察について	
2	施灸施鍼練習 、 切診の方法1	
3	施灸施鍼練習 、 切診の方法2	
4	脈診1 脈状診と脈差診	
5	脈診2 六部定位脈診1	
6	脈診3 六部定位脈診2	
7	脈診4 六部定位脈診3	
8	腹診1 五蔵配当	
9	腹診2 腹診の方法	
10	腹診3 腹証の立て方	
11	腹診4 腹証に応じた治療1	
12	腹診5 腹証に応じた治療2	
13	腹診6 腹証に応じた治療3	
14	前期試験1	
15	前期試験2	

授業内容

日 程	内 容	使用機材等
16	問診の要点 カルテの書き方	
17	要穴を用いた治療・三角灸	
18	要穴を用いた治療・三角灸	
19	要穴を用いた治療・三角灸	
20	要穴を用いた治療・三角灸	
21	要穴を用いた治療・糸状灸	
22	要穴を用いた治療・糸状灸	
23	要穴を用いた治療・糸状灸	
24	要穴を用いた治療・糸状灸	
25	背部督脈を用いる治療	
26	背部督脈を用いる治療	
27	後期試験 1	
28	後期試験 2	
29	季肋部を用いた治療	
30	局所の気血に対する治療	

<2024年度>

授業要項

科目	社会はりきゅう学	学科名	はりきゅう	履修年次	3年次
		教授法	講義	単位数コマ	3単位(38コマ)
教員	古川 清裕 他	領域	専門	実務経験	鍼灸院
教科書	教科書執筆小委員会著:社会あはき学 株式会社医道の日本社				
参考書	総合学習2の教科書に加え、衛生学・公衆衛生学、リハビリテーション医学、医療概論、東洋医学臨床論など				
成績評価	出席、提出物などを総合して評価する。				
評価基準	出席、提出物など総合し、学校の定める成績評価に準ずる。				
到達目標	授業内容を現場で活かし、社会に貢献することができる医療人となる。				
留意点	この科目の内容は特に卒後において重要なものとなる。				
授業外に必要な学習内容	普段から健康課題に関心を持つ。				
授業内容	鍼灸師としての鍼灸院での勤務経験を踏まえ、理解しておくべき内容を主に教科書を使用して説明し、今まで学習した内容を含めて総合的に学習する。				

授業内容

日程	内容	使用機材等
1	オリエンテーション	
2	第1章 総論	
3	第2章 あはき師を取り巻く環境	
4	第3章 地域で期待されるあはき師の業務	
5	第3章 地域で期待されるあはき師の業務	
6	第4章 現在社会におけるあはき師の役割	
7	第4章 現在社会におけるあはき師の役割	
8	第4章 現在社会におけるあはき師の役割	
9	第4章 現在社会におけるあはき師の役割	
10	第4章 現在社会におけるあはき師の役割	
11	第4章 現在社会におけるあはき師の役割	
12	第5章 施術所の経営展開	
13	総合学習	
14	総合学習	
15	総合学習	

授業内容

日 程	内 容	使用機材等
16	総合学習	
17	総合学習	
18	総合学習	
19	総合学習	
20	総合学習	
21	総合学習	
22	総合学習	
23	総合学習	
24	総合学習	
25	総合学習	
26	総合学習	
27	総合学習	
28	総合学習	
29	総合学習	
30	総合学習	
31	総合学習	
32	総合学習	
33	総合学習	
34	総合学習	
35	総合学習	
36	総合学習	
37	総合学習	
38	総合学習	

<2024年度>

授業要項

科目	はり・きゅう実習7	学科名	はりきゅう	履修年次	3年次
		教授法	実習	単位数コマ	2単位(30コマ)
教員	小林郁代	領域	専門	実務経験	鍼灸院
教科書					
参考書	『積聚治療』・『続・積聚治療』 小林詔司著 医道の日本社				
成績評価	出欠席、小テスト、実技試験、提出物等、学期末試験				
評価基準					
到達目標	東洋医学の観点に立った診断方法・治療方法を身につける				
留意点	欠席しないこと				
授業外に必要な学習内容	実技練習				
授業内容	鍼灸師として鍼灸院での勤務経験を踏まえ、東洋診察、臨床実習と連携をとり、腹診を中心とした治療方法を教授する				

授業内容

日程	内容	使用機材等
1	施灸施鍼練習、気の捉え方①	
2	気の捉え方②	
3	気の捉え方③	
4	脈診実習1	
5	脈診実習2	
6	脈診実習3・三角灸の方法	
7	脈診実習4・三角灸練習	
8	腹診実習1・三角灸練習2	
9	腹診実習2・三角灸練習3	
10	前期・鍼灸実技試験	
11	前期・鍼灸実技試験	
12	腹診実習3・糸状灸の方法	
13	腹診実習4・糸状灸練習	
14	腹診実習5・糸状灸練習2	
15	腹診実習7	

授業内容

日 程	内 容	使用機材等
16	外来実習	
17	外来実習	
18	外来実習	
19	外来実習	
20	外来実習	
21	外来実習	
22	外来実習	
23	外来実習	
24	外来実習	
25	外来実習	
26	外来実習	
27	外来実習	
28	外来実習	
29	外来実習	
30	外来実習	

<2024年度>

授業要項

科目	はり・きゅう実習 8	学科名	はりきゅう	履修年次	3年次
		教授法	実習	単位数コマ	2単位(30コマ)
教員	深澤栄一	領域	専門	実務経験	鍼灸院
教科書	はりきゅう実技(基礎編)(医歯薬出版)				
参考書					
成績評価	学期末試験				
評価基準	学期末試験の60%以上で単位取得とする				
到達目標	基礎のはりきゅうの技術の習得と応用を習得し、1人の患者を治療できるようにする				
留意点					
授業外に必要な学習内容					
授業内容	鍼灸師として鍼灸院での勤務経験を踏まえ、実技室において、パワーポイントによる病態の説明、ベットサイドにおける技術を反復練習し、誰でも治療指針が立てられるようにする				

授業内容

日程	内容	使用機材等
1	ガイダンス、	
2	刺入練習、施灸練習、腰痛症の病態説明	
3	刺入練習、施灸練習、腰痛症の禁忌について	
4	刺入練習、施灸練習、腰痛症の治療の実際	
5	刺入練習、施灸練習、坐骨神経痛の病態説明	
6	刺入練習、施灸練習、坐骨神経痛の治療の実際	
7	刺入練習、施灸練習、坐骨神経痛の治療の実際	
8	刺入練習、施灸練習、頸腕症候群の病態説明	
9	刺入練習、施灸練習、頸腕症候群の治療の実際	
10	刺入練習、施灸練習、頸腕症候群の治療の実際	
11	刺入練習、施灸練習、五十肩の病態説明	
12	刺入練習、施灸練習、五十肩の治療の実際	
13	刺入練習、施灸練習、五十肩の治療の実際	
14	刺入練習、施灸練習、上肢痛の病態生理	
15	刺入練習、施灸練習、上肢痛の治療の実際	

授業内容

日 程	内 容	使用機材等
16	刺入練習、施灸練習、 変形性膝関節症の病態生理)	
17	刺入練習、施灸練習、 変形性膝関節症の治療の実際)	
18	刺入練習、施灸練習、 変形性膝関節症の治療の実際)	
19	卒業試験対策	
20	卒業試験対策	
21	刺入練習、施灸練習、 リュウマチの病態生理	
22	刺入練習、施灸練習、 リュウマチの治療の実際	
23	刺入練習、施灸練習、 頸椎捻挫後遺症の病態生理	
24	刺入練習、施灸練習、 頸椎捻挫後遺症の治療の実際	
25	スポーツ障害の特性と病態生理	
26	スポーツ障害の治療の実際（肩関節）	
27	スポーツ障害の治療の実際（膝関節）	
28	スポーツ障害の治療の実際（腰痛）	
29	症例に対する治療 1	
30	症例に対する治療 2	

<2024年度>

授業要項

科目	はり・きゅう実習9	学科名	はりきゅう	履修年次	3年次
		教授法	実習	単位数コマ	1単位(15コマ)
教員	はりきゅう学科教員	領域	専門	実務経験	鍼灸院
教科書	『はりきゅう実技基礎編』『経絡経穴概論』『東洋医学概論』教科書執筆小委員会 著 医道の日本社				
参考書	特になし				
成績評価	出席・提出物などを総合して判断する。				
評価基準	学則に準じて評価。				
到達目標	患者の治療は勿論のこと、基本的な臨床マナーやカルテ管理が出来るようになる。				
留意点	身だしなみをきちんと整え、極力休まないように体調管理を行うこと。				
授業外に必要な学習内容	はりきゅう基礎実技 はりきゅう応用実技				
授業内容	鍼灸師として鍼灸院での勤務経験を踏まえ、実際の患者を対象にEBMの過程を念頭に、主観的・客観的なデータ収集・批判的な吟味・インフォームドコンセント・治療・カルテ記載などの実際の臨床に即した訓練を行う。				

授業内容

日程	内 容	使用機材等
1	各グループによる学用患者への治療	書画カメラ
2	〃	〃
3	〃	〃
4	〃	〃
5	〃	〃
6	〃	〃
7	〃	〃
8	〃	〃
9	〃	〃
10	〃	〃
11	〃	〃
12	〃	〃
13	〃	〃
14	〃	〃
15	〃	〃

<2024年度>

授業要項

科目	臨床実習3 (中医学的臨床実習)	学科名	はりきゅう	履修年次	3年次
		教授法	実技	単位数コマ	2単位 (12コマ)
教員	角澤 隆	領域	専門	実務経験	あり
教科書					
参考書					
成績評価	出席・提出物などを総合して判断する。				
評価基準	学則に準じて評価。				
到達目標	患者の治療は勿論のこと、基本的な臨床マナーや中医学的弁証法が理解出来るようになる。				
留意点	身だしなみをきちんと整え、極力休まないように体調管理を行うこと。				
授業外に必要な学習内容	2年生までの臨床実習の内容をふまえて、解剖学・経絡経穴、臨床医学総論・各論の知識、基本的な鍼灸技術、検査技術を要する。放課後等の時間を使い、日々臨床に携わる者としての実践練習に励むこと。				
授業内容	鍼灸師として鍼灸院での勤務経験を踏まえ、2年次に履修した補瀉手技方法を駆使して各症例に対する弁証 トレーニングを行い、臨床に即した実践方法を学ぶ。				

授業内容

日 程	内 容	使用機材等
1	オリエンテーション 補瀉手技の復習	書画カメラ
2	症例 1	〃
3	症例 2	〃
4	症例 3	〃
5	症例 4	〃
6	症例 5	〃
7	症例 6	〃
8	症例 7	〃
9	耳鍼療法 (皮内鍼法)	〃
10	台湾式足裏反射療法	〃
11	〃	〃
12	まとめ	〃

<2024年度>

授業要項

科目	総合学習 3	学科名	はりきゅう	履修年次	3 年次
		教授法	講義	単位数コマ	3 単位 (38 コマ)
教員	はりきゅう学科専任教員	領域	専門	実務経験	鍼灸院
教科書	総合学習2の教科書に加え、衛生学・公衆衛生学、リハビリテーション医学、医療概論、東洋医学臨床論、社会あはき学など				
参考書	鍼灸医療安全ガイドライン、鍼灸学基礎編、機能解剖的触診技術、鍼通電療法テクニックなど				
成績評価	出席、提出物などを総合して評価する。				
評価基準	出席、提出物など総合し、学校の定める成績評価に準ずる。				
到達目標	西洋医学と東洋医学における人体の機能・構造を理解し、鍼灸治療における臨床的な技術を習得する。				
留意点	授業内容によって教室や実技室などを使用する。進捗状況によって内容の変更することもある。				
授業外に必要な学習内容	コミュニケーション能力を高めよう。				
授業内容	鍼灸師として鍼灸院での勤務経験を踏まえ、今まで学習した内容を含め、総合的に学習する。				

授業内容

日 程	内 容	使用機材等
1	オリエンテーション	
2	今まで学習した内容を踏まえ、臨床実習での治療内容を検討する。	
3	今まで学習した内容を踏まえ、臨床実習での治療内容を検討する。	
4	今まで学習した内容を踏まえ、臨床実習での治療内容を検討する。	
5	今まで学習した内容を踏まえ、臨床実習での治療内容を検討する。	
6	今まで学習した内容を踏まえ、臨床実習での治療内容を検討する。	
7	今まで学習した内容を踏まえ、臨床実習での治療内容を検討する。	
8	今まで学習した内容を踏まえ、臨床実習での治療内容を検討する。	
9	今まで学習した内容を踏まえ、臨床実習での治療内容を検討する。	
10	今まで学習した内容を踏まえ、臨床実習での治療内容を検討する。	
11	今まで学習した内容を踏まえ、臨床実習での治療内容を検討する。	
12	今まで学習した内容を踏まえ、臨床実習での治療内容を検討する。	
13	今まで学習した内容を踏まえ、臨床実習での治療内容を検討する。	
14	今まで学習した内容を踏まえ、臨床実習での治療内容を検討する。	
15	今まで学習した内容を踏まえ、臨床実習での治療内容を検討する。	

授業内容

日 程	内 容	使用機材等
16	今まで学習した内容を踏まえ、臨床実習での治療内容を検討する。	
17	今まで学習した内容を踏まえ、臨床実習での治療内容を検討する。	
18	今まで学習した内容を踏まえ、臨床実習での治療内容を検討する。	
19	今まで学習した内容を踏まえ、臨床実習での治療内容を検討する。	
20	今まで学習した内容を踏まえ、臨床実習での治療内容を検討する。	
21	今まで学習した内容を踏まえ、臨床実習での治療内容を検討する。	
22	今まで学習した内容を踏まえ、臨床実習での治療内容を検討する。	
23	今まで学習した内容を踏まえ、臨床実習での治療内容を検討する。	
24	今まで学習した内容を踏まえ、臨床実習での治療内容を検討する。	
25	今まで学習した内容を踏まえ、臨床実習での治療内容を検討する。	
26	今まで学習した内容を踏まえ、臨床実習での治療内容を検討する。	
27	今まで学習した内容を踏まえ、臨床実習での治療内容を検討する。	
28	今まで学習した内容を踏まえ、臨床実習での治療内容を検討する。	
29	今まで学習した内容を踏まえ、臨床実習での治療内容を検討する。	
30	今まで学習した内容を踏まえ、臨床実習での治療内容を検討する。	
31	今まで学習した内容を踏まえ、臨床実習での治療内容を検討する。	
32	今まで学習した内容を踏まえ、臨床実習での治療内容を検討する。	
33	今まで学習した内容を踏まえ、臨床実習での治療内容を検討する。	
34	今まで学習した内容を踏まえ、臨床実習での治療内容を検討する。	
35	今まで学習した内容を踏まえ、臨床実習での治療内容を検討する。	
36	今まで学習した内容を踏まえ、臨床実習での治療内容を検討する。	
37	今まで学習した内容を踏まえ、臨床実習での治療内容を検討する。	
38	今まで学習した内容を踏まえ、臨床実習での治療内容を検討する。	

<2024年度>

授業要項

科目	総合学習 4	学科名	はりきゅう	履修年次	3 年次
		教授法	講義	単位数コマ	3 単位 (38 コマ)
教員	はりきゅう学科専任教員	領域	専門	実務経験	鍼灸院
教科書	総合学習2の教科書に加え、衛生学・公衆衛生学、リハビリテーション医学、医療概論、東洋医学臨床論、社会あはき学など				
参考書	鍼灸医療安全ガイドライン、鍼灸学基礎編、機能解剖的触診技術、鍼通電療法テクニックなど				
成績評価	出席、試験、提出物などを総合して評価する。				
評価基準	出席、試験、提出物など総合し、学校の定める成績評価に準ずる。				
到達目標	西洋医学と東洋医学における人体の機能・構造を理解し、鍼灸治療における臨床的な技術を習得する。				
留意点	授業内容によって教室や実技室などを使用する。進捗状況によって内容の変更することもある。				
授業外に必要な学習内容	コミュニケーション能力を高めよう。				
授業内容	鍼灸師として鍼灸院での勤務経験を踏まえ、今まで学習した内容を含め、総合的に学習する。				

授業内容

日程	内 容	使用機材等
1	総合学力判定試験	
2	総合学力判定試験	
3	チームワーク研修など	
4	チームワーク研修など	
5	チームワーク研修など	
6	チームワーク研修など	
7	総合学力判定試験	
8	総合学力判定試験	
9	総合学力判定試験	
10	総合学力判定試験	
11	総合学力判定試験	
12	総合学力判定試験	
13	総合学力判定試験	
14	総合学力判定試験	
15	総合学習 2 の内容に加え、東洋医学臨床論、社会あはき学など	

授業内容

日 程	内 容	使用機材等
16	総合学習 2 の内容に加え、東洋医学臨床論、社会あはき学など	
17	総合学習 2 の内容に加え、東洋医学臨床論、社会あはき学など	
18	総合学習 2 の内容に加え、東洋医学臨床論、社会あはき学など	
19	卒業見込み判定試験	
20	卒業見込み判定試験	
21	卒業見込み判定試験	
22	卒業見込み判定試験	
23	卒業見込み判定実技試験	
24	卒業見込み判定実技試験	
25	卒業見込み判定実技試験	
26	卒業見込み判定実技試験	
27	卒業見込み判定実技試験	
28	卒業見込み判定実技試験	
29	卒業見込み判定試験	
30	卒業見込み判定試験	
31	卒業見込み判定試験	
32	卒業見込み判定試験	
33	総合学習 2 の内容に加え、東洋医学臨床論、社会あはき学など	
34	総合学習 2 の内容に加え、東洋医学臨床論、社会あはき学など	
35	総合学習 2 の内容に加え、東洋医学臨床論、社会あはき学など	
36	総合学習 2 の内容に加え、東洋医学臨床論、社会あはき学など	
37	総合学習 2 の内容に加え、東洋医学臨床論、社会あはき学など	
38	国試対策模擬試験	